

令和5年度
事業報告書



社会福祉法人 市原市社会福祉協議会

目 次

“社協の見える化・見せる化”の推進

1. 広報事業 1

財政基盤の充実・強化

1. トップセールスの推進 1
2. 社会福祉基金運用事業 2

人財育成及び人財確保

1. 職員研修 3

トップマネジメントの強化

1. 組織運営事業 5

地域の誰もが互いに支え合うコミュニティづくり【共感】

1. 福祉意識の醸成 7
 ・ 地域・福祉を知る機会の充実
 ・ 人と人とのふれあいを育む場の推進
2. 小地域福祉活動の推進 1 2
 ・ 地区社協の活動・運営支援
 ・ 小域福祉ネットワークの活動・運営支援

地域のつながりを豊かにするための仕組みづくり【共創】

1. 地域で孤立させない取組の強化 1 6
 ・ 寄り添い支えていく体制の強化
 ・ 生活を支えるための体制の強化
2. 地域福祉力の向上 2 8

地域で安心して幸せに暮らすための基盤づくり【共生】

1. 地域で活躍する人材の育成 2 9
 ・ 福祉教育の推進
 ・ 市内企業との連携
 ・ ボランティア活動の推進
2. 権利擁護の推進 3 3
 ・ 市原市成年後見支援センターの設置・機能の充実
3. 災害対応力の向上 3 8
 ・ 災害ボランティアセンターの体制強化
 ・ 災害ボランティアの育成・確保
 ・ 災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施

指定管理施設の運営

1. 指定管理施設管理経営事業 4 1

"社協の見える化・見せる化"の推進

1. 広報事業

社会福祉への意識の高揚と社協の事業・活動への理解、認識の向上を目的に広報活動を行った。

(1) 機関紙「いちほら社協だより」の発行

88,400部を年3回発行【内訳 新聞折込：76,300部 町会回覧：12,100部】

号数	245号	246号	247号	号数
発行日	5月20日	9月20日	3月20日	発行日
頁数	4頁	4頁	4頁	頁数

(2) ホームページの運営

最新の情報を掲載し、市民の皆様役に役立つ福祉情報を発信するため、情報提供の迅速化を図った。

市原市社会福祉協議会ホームページ：<http://www.ichihara-shakyo.or.jp>

(3) SNSの運営

ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を運営し、より多くの皆様に迅速かつ適切な情報を発信した。

X（エックス（旧ツイッター））：https://twitter.com/ichihara_ytb

Facebook（フェイスブック）：<https://www.facebook.com/ichiharayotuba/>

Instagram（インスタグラム）：市社協本部 https://www.instagram.com/ichihara_ytb/
社協関係施設 https://www.instagram.com/ichihara_ytb2/

社協公式LINE：市社協本部 @111xpewj 社協関係施設 @612nqqzy

社協YouTube：<https://www.youtube.com/channel/UC7NZJKj8QYd0cnHHXXERyXw>

成果	若い世代の利用率が高いInstagramのアカウントを新規開設した。広報委員会で利用方法等の勉強会を行い所属職員に周知したことでスムーズな利用につながり、特に児童館のお知らせを行う社協関連施設のアカウントにおいて多くの方々に閲覧いただくことができた。 ◇ホームページ【閲覧回数9,325回】 ◇X【閲覧回数10,783回】 ◇Facebook【閲覧回数10,839回】 ◇YouTube【投稿数2本、総再生回数271回】 ◇Instagram【閲覧回数608回（市社協本部：78回、社協関係施設：530回）】 ◇LINE【登録者数443人（社協公式：194人、社協関係施設：249人）】
課題・方向性	市民が気軽に閲覧することができるツールを積極的に活用していくとともに、本会の取組みや地域における活動の周知について動画を用いる等、イメージしやすい情報発信を行うことで本会の理解促進や施設の利用率の向上を図る。

財政基盤の充実強化

1. トップセールスの推進

(1) 公的財源の確保

行政計画の具現化を図るための本会の活動計画の目標達成に向けて、安定した公的財源の確保を図るため、本会の取組みの成果や新たな提案について市長へトップセールスを行った。

市長訪問	8月2日	要望事項 1. 地区社会福祉協議会事務局拠点の整備について 2. 市原市社会福祉協議会事務局建物の施設修繕について
------	------	---

成果	正副会長による市長へのトップセールスを実施したことで、次年度の新たな地区社協助成金及び施設改修費など公的財源の確保につながった。
課題・方向性	今後もトップセールスを推進し、補助金等の安定的な確保を図るため本会の役割や責任を果たすよう努めていく。

2. 社会福祉基金運用事業

(1) 社会福祉基金管理

幅広い地域福祉活動を進めていくための財源として有効的な活用を行った。

① 積立金

種別	積立預入先	金額
普通預金	千葉銀行	2,432,018 円
定額預金	ゆうちょ銀行	10,000,000 円
定期預金	J Aバンク	10,000,000 円
定期預金	千葉興業銀行	10,000,000 円
定期預金	京葉銀行	10,000,000 円
定期預金	君津信用組合	10,000,000 円
積立合計		52,432,018 円

② 債券

種別	銘柄名	金額
公募地方債	政府保証債第 284 回日本高速道路保有債務返済機構債	100,000,000 円
公募地方債	千葉県第 10 回公募公債	100,000,000 円
合計		200,000,000 円

社会福祉基金総額	252,432,018 円
----------	---------------

(2) 社会福祉基金の活用

① 地区社協拠点等整備事業

地区社協の充実・強化を図るため社会福祉基金を取崩し、拠点等整備及び維持管理費の助成を行った。

(整備順)

No.	地区名	拠点整備費	維持管理費	No.	地区名	拠点整備費	維持管理費
1	辰巳台	0 円	240,000 円	6	南総	0 円	33,022 円
2	市津	0 円	240,000 円	7	姉崎	0 円	33,025 円
3	ちはら台	0 円	240,000 円	8	五井	498,905 円	0 円
4	国分寺台	0 円	60,218 円	9	市原	550,000 円	0 円
5	有秋	0 円	66,047 円				
拠点整備費合計：2 地区		1,048,905 円		(H25 度からの累計 8,009,955 円)			
維持管理費合計：7 地区		912,312 円					

② 事務局運営経費

地区社協の組織力や運営基盤の強化を図るため、事務局運営経費を交付した。

助成団体	助成金額	備考
地区社協	160,000 円×11 地区=1,760,000 円	1 地区年額 160,000 円

③ 地区社協車両貸与事業

地区社協の生活課題を抱える地域住民への生活支援体制と充実強化に資するため車両の貸与（リース）を行った。

地区名	車両リース代	備考
辰巳台	199,100 円 (16,720 円/月×5 回) (16,500 円/月×7 回)	コーディネート業務及び買い物代行として

社会福祉基金活用額合計	3,920,317 円 (※内 240,000 円は新年度で令和 5 年度分として取崩し)
-------------	---

人財育成及び人材確保

1. 職員研修

「職員研修規程」に基づき、職務の遂行に必要な資格、知識及び技術を習得させるとともに、社会福祉の向上に資するため次のとおり実施した。

(1) 職場研修

研修名	研修内容	期日	研修場所	受講者数
令和5年度職員研修	個人情報の適切な管理・取扱いを行うため、組織全体で個人情報保護法を理解する	11月27日	事務局	43名
総務管理グループ				
第1回	法人指導監査への対応について	9月1日	事務局	6名
第2回	個人情報の取扱いについて ・個人情報とは～個人情報保護法について ・総務管理グループ取扱いマニュアルについて	11月7日 11月21日	事務局	6名
地域生活支援グループ【生活支援チーム】				
第1回	個人情報取扱いについて方向性の共有	11月9日	事務局	4名
第2回	災害ボランティアセンター設置運営訓練について方向性の共有	2月8日	事務局	8名
地域生活支援グループ【地域支援チーム】				
第1回	地域支援チーム所管事業の方向性等の共有	5月17日	事務局	8名
第2回	・市地域福祉推進事業補助制度(地区社協分)の概要 ・個人情報の取扱いについて 地域支援チーム所管業務の取扱いについて	2月27日	事務局	8名
地域生活支援グループ【西部エリア推進センター】				
第1回	災害ボランティアセンターの設置訓練について(事前学習)	2月9日	アネッサ	6名
第2回	災害ボランティアセンターの設置訓練について(検証)	2月17日	アネッサ	6名
地域生活支援グループ【中部・南部エリア推進センター】				
第1回	福祉避難所について	1月25日	サンハート	3名
第2回	個人情報保護規程について ・南部エリア推進センター取扱いマニュアルについて ・日常業務での注意事項	12月27日	なのはな館	15名
第3回	福祉避難所開設運営訓練について	2月5日	サンハート	6名
第4回	社協の見える化・見せる化(地域におけるSNSの活用に向けて)	2月9日	サンハート	3名
第5回	個別相談を通じた新たな資源の創出について(南総)	3月10日	サンハート	3名

(2) 職場外研修

研修名	研修内容	期日	研修場所	受講者数
千葉県福祉教育推進員養成研修	千葉県から指定を受けた福祉教育推進団体として福祉教育に関する知識等を習得し実践につなげることを目的とする	4月21日	千葉県社会福祉センター	1名
令和5年度市町村地域福祉担当課長・市町村社会福祉協議会事務局長合同会議	地域共生社会の実現に向けた地域づくり ～重層的支援体制整備事業の理念を踏まえて～	5月26日	オンライン研修	1名

千葉県福祉教育研究大会	福祉教育指定団体及び学校の3年間の実践発表を通して学校と地域が協働して推進する意義や交換について考えを深めることを目的とする	8月22日	千葉県社会福祉センター	1名
令和5年度千葉県コミュニティソーシャルワーカー育成研修	コミュニティソーシャルワークの手法を学び、必要な知識、技術を身につける	9月7.16.17日 12月2日 12月3日	ホテルポートプラザちば ペリエホール	4名
令和5年度日常生活自立支援事業 現任専門員研修会	専門員として、利用者の意思尊重支援を基本に利用者の権利擁護を図り地域で自立した生活を支援していくため、対人援助の意義、初期支援の重要性を認識することを目的とする	9月23日	千葉県社会福祉センター	1名
令和5年度市町村社会福祉協議会事務局長会 第2回研修会	「『伊賀市を生活上の課題を持つ人が日本一少ない町にする』伊賀市社協が目指す福祉の実現に向けて…」 「行政との連携や人材育成等の実践」 「権利擁護の取り組みについて」	11月15日	千葉県社会福祉センター	1名
令和5年度 専門員実践強化研修会 (初任者研修)	日常生活自立支援事業の専門員に求められる職員の全国水準の確保、十分な専門性を有する人材を養成する事を目的とする	11月28日 12月19日	オンライン研修	1名
令和5年度障害者虐待防止・権利擁護研修	・障害者雇用の促進について ・使用者による障害者虐待の状況について ・雇用する障害者への理解と合理的配慮・虐待防止について	1月17日	オンライン研修	1名
社協職員ネットワークづくり研修	社協職員が必要とする地域住民をはじめとする連携づくり、関係者同士をつなげるための必要な視点に関する講義	1月30日	千葉県社会福祉センター	2名
市原市障がい者支援協議会権利擁護部会 障がい者虐待防止事案検討会	障がい者だけでなく、高齢者を含む複合的な虐待への対応力向上、対応への共通理解、人材育成を目的とする	1月30日	ウェルシア・コミュニケーションセンターいちばら	1名
令和5年度地域福祉・ボランティア担当者研修	全社協「新・社会福祉協議会基本要項」に係る基調説明、県内社協における福祉教育、生活支援体制整備事業等の取組事例の報告	2月2日	千葉県社会福祉センター	2名
成年後見制度利用促進体制整備のための千葉県域会議・セミナー	「第二期成年後見制度利用促進基本計画」に基づく包括的な支援体制の構築と権利擁護支援について理解を深める	2月21日	オンライン研修	1名
令和5年度千葉県地域福祉シンポジウム	地域共生社会の実現に向けた県内で先駆的な地域福祉活動を行うNPO、社会福祉法人、地区社協における実践報告、共生社会づくりの重要性に係る基調説明	2月25日	千葉県社会福祉センター	2名
令和5年度権利擁護支援シンポジウム「地域の権利擁護を支える市民後見人」	成年後見制度における意思決定支援について理解を深め、今後の活動推進に活かす技術を身に付ける	3月8日	オンライン研修	1名

成果	個人情報保護法の改正に伴い、改正法の理解と情報の取得から管理まで適切な取扱いを行えるよう、外部講師を招き職員研修会を実施した。また、各々の担当部署におけるスキルアップを図るため多くの外部研修に参加し資質向上を図った。
課題・方向性	引き続き職場外研修への積極的な参加に加え、職場内での業務の理解や円滑な進行を可能とするOJTを強化し、更なる資質向上を目指す。

トップマネジメントの強化

1. 組織運営事業

健全な社会福祉事業の経営と公正な法人運営を維持するため、次のとおり各会議を開催した。

(1) 正副会長会議

期日	内容
4月14日	1. 令和5年度社会福祉協議会会議日程について
5月12日	1. 令和5年度 第1回理事会及び評議員会上程議案について
6月14日	1. 令和5年度第2回理事会上程議案について
7月14日	1. 市長訪問について 2. 要望書について
8月2日 市長訪問	要望事項 1. 地区社会福祉協議会事務局拠点の整備について 2. 市原市社会福祉協議会事務局建物の施設修繕について
8月9日	1. 各計画評価（案）について 2. 社協の見える化・見せる化について 3. 令和5年度第1回常任委員会の日程について
9月13日	1. 指定管理者申請に係る事業計画について 2. 令和5年10月正副会長会の日程調整について 3. 令和5年度第3回理事会日程調整について
10月4日	1. 指定管理申請（ヒアリング）に係るプレゼンテーションについて 2. 令和5年度第3回理事会について 3. 福祉資金貸付制度における債権管理の考え方について（案）
11月8日	1. 評議員選任・解任委員会の日程調整について 2. 役員研修について 3. 法人クレジットカードの作成について
12月13日	1. 令和5年度第4回理事会について 2. 市社協における新たな相談支援事業の展開に向けた考え方について（案）
1月10日	1. 福祉資金貸付制度における債権整理について（経過報告） 2. （仮称）いちほら地域連携型相談支援事業実施要綱（案）について 3. 令和5年度第5回理事会及び第3回評議員会日程調整について
2月14日	1. 福祉資金貸付事業における今後の債権整理の方向性について（案）
3月6日	1. 令和5年度第5回理事会について

(2) 理事会及び評議員会

項目	期日	議案等
監査	5月22日	令和4年度分監査
第1回理事会 (18名出席)	6月7日	1. 副会長の選定について 2. 令和4年度事業報告の承認について 3. 令和4年度決算の承認について [監査報告] 4. 令和5年度第1回補正予算（案）について 5. 弔慰金等支給要綱の一部改正について 6. 社会福祉法人市原市社会福祉協議会個人情報保護規程の改正について 7. 評議員選任候補者の決定について 8. 役員選任案の決定について 9. 令和5年度第1回評議員会の開催について
第1回評議員会 (34名出席)	6月23日	1. 令和4年度事業報告の承認について 2. 令和4年度決算の承認について [監査報告] 3. 令和5年度第1回補正予算（案）について 4. 役員の選任について

第2回理事会 (15名出席)	6月23日	1. 会長の選定について 2. 副会長の選定について 3. 常務理事の選定について 4. 評議員選任候補者の決定について
第3回理事会 (15名出席)	10月30日	1. 令和5年度第2回補正予算(案)について 2. 評議員候補者の選任について 3. 理事選任案の決定について 4. 令和5年度第2回評議員会の開催について
第2回評議員会 (決議の省略)	11月22日	1. 令和5年度第2回補正予算(案)について 2. 役員の選任について
第4回理事会 (13名出席)	1月16日	1. 専決処分の承認を求めることについて 2. 給与規程の一部改正について 3. 会計規程の一部改正について 4. 社会福祉法人市原市社会福祉協議会クレジットカード取扱規程の制定について
第5回理事会 (19名出席)	3月18日	1. 令和5年度第3回補正予算(案)について 2. 地区社協設置規程の一部改正について 3. いちはら地域連携型相談支援事業実施要綱の制定について 4. 定款の変更について 5. 役員、評議員選出規則の一部改正について 6. 会計規程の一部改正について 7. 社会福祉基金助成要綱の廃止について 8. 社会福祉基金の取崩しについて 9. 令和6年度事業計画(案)について 10. 令和6年度予算(案)について 11. 債権の放棄について 12. 令和5年度第3回評議員会の開催について
第3回評議員会 (39名出席)	3月26日	1. 令和5年度第3回補正予算(案)について 2. 定款の変更について 3. 社会福祉基金の取崩しについて 4. 令和6年度事業計画(案)について 5. 令和6年度予算(案)について 6. 債権の放棄について

(3) 常任委員会

期日	内容
8月25日	1. 各計画評価(案)について 2. 社協の見える化・見せる化について

(4) 評議員選任・解任委員会

期日	内容
9月5日	1. 評議員の選任について
12月4日	1. 評議員の選任について

(5) 役員研修会

研修内容	講師	期日	研修場所	受講者
個人情報保護法の理解	千葉県弁護士会 個人情報に関する委員会 委員 弁護士 中村恒平氏	1月16日	事務局	役員14名

成果	新型コロナウイルスの第5類移行に伴い、各会議体を通常開催することができた。理事会においては ZOOM を活用したオンライン参加の定着による出席率の向上に加え活発な議論や提案などが行われ活性化が図られた。
課題・方向性	引き続き正副会長会において法人の方向性や抱える課題の共有に努め、解決に向けた検討を重ねていく。また、各会議体においても有意義な議論を行える環境づくりに努めていく。

1. 福祉意識の醸成

(1) 地域・福祉を知る機会の充実

①地域福祉活動の見える化・見せる化の推進

・ SNS を活用した情報発信

一部の地区社協や小域福祉ネットワークにおいて、フェイスブックやエックス（旧ツイッター）などの SNS を活用し地域福祉活動の周知を図った。

②生活困窮者支援活動の推進

(ア) 「いちほらフードネットワーク」（市原市独自のフードバンク）の推進

生活困窮者を地域全体で支える仕組みづくり（困ったときはお互いさまの地域づくり）に向けて、食料の支援が必要な世帯に対し、無償で食品を提供する常設型の「いちほらフードネットワーク」（市原市独自のフードバンク）を推進した。また、食品を安定的・効果的に確保するため、企業の社会貢献活動と連携した取組みを拡充させた。

協力企業	食品募集場所・期間
(株)イトーヨーカ堂	イトーヨーカ堂アリオ市原店・姉崎店 ※フードドライブ実施に関する覚書締結 令和 4 年 8 月 1 日～（自動的に 1 年間延長）
マックスバリュ 関東(株)	マックスバリュ辰巳台店 ※食品の提供・譲渡に関する合意書締結 令和 4 年 10 月 1 日～（自動的に 1 年間延長）
生活協同組合コープみらい	コープデリ市原センター ※食品等の寄付に関する覚書締結 令和 5 年 7 月 7 日～（自動的に 1 年間延長）

<食品受け入れ、提供実績>

年度	食品受け入れ数	食品受け入れ重量	食品提供数	食品提供重量
R5 年度	7,459 品	3,871.318 kg	7,672 品	3,005.338 kg

成果	継続的に(株)イトーヨーカ堂、マックスバリュ 関東(株)に食品募集 BOX を設置し、来客や地域住民等から 合計 7,459 品、3,871.318 kg の食料品の寄付が集まった。また、新たに生活協同組合コープみらいと食品等の寄付に関する覚書の締結を通じ企業との連携が拡充された。食糧支援が必要な世帯への提供や地域・子ども食堂への支援、生活困窮者への支援等（7,672 品 3,005 kg）に活用することが出来た。
課題・方向性	引き続き、広く住民へ「困ったときはお互いさま」の意識醸成に向け食品提供の呼び掛けを行うとともに、食品提供を通じ支援が必要な世帯とのつながりの強化に努める。また、地域・子ども食堂等の団体への食品の提供を通じて居場所活動の活性化を支援していく。

(イ) フードパントリーの開催

生活困窮者を地域全体で支える仕組みづくり（困ったときはお互いさまの地域づくり）の一環として、子育て家庭等に対して食品を無償で提供するイベント型の「よつばちゃんのフードパントリー」を開催した。

・市社協主催「よつばちゃんのフードパントリー」

期日	12 月 16 日（土）
場所	市原青少年会館
参加者	市原地区在住で食品の提供を希望する子育て世帯（計 41 世帯）
内容	・地域住民や企業・商店等のご厚意により寄付いただいた食品の無償配布 ・いちほら生活相談サポートセンターによる出張相談 ・いちほら地域・子ども食堂ネットワークによる活動 PR（軽食提供） （げんき食堂アネッサ、辰巳台地域子ども食堂だんだん、地域食堂「コンパス」）

・地域主催「フードパントリー」

実施地区	辰巳台地区	千種地区	国分寺台地区
回数	12 回	3 回	1 回

成果	地域住民、企業等から食料品 計 2,073 点 (382 kg) の寄付が得られた。また、今年度は地域・子ども食堂ネットワークに加入する 3 団体に協力いただき活動の周知を行うとともに、参加者へ軽食の提供を行った。 本事業の実施にあたり、地区社協、小域福祉ネットワークや町会長会等の地域団体、いはら生活相談サポートセンター等の専門機関などと連携して事業を実施したことで今後の支援に向けた連携体制構築の契機となった。
課題・方向性	今後も実施地区の拡充を図りながらフードパントリーを継続して実施し、「困ったときはお互いさま」の住民意識の醸成を図っていくとともに、関係機関と連携しながら、新たな生活困窮者支援（独自のフードバンク）の推進に向けた環境整備に取り組む。

(ウ) 制服リユース事業の試行実施

生活困窮者を地域全体で支える仕組みづくり（困ったときはお互いさまの地域づくり）の一環として、中学校へ入学する子どもを持つ家庭を対象に、不要となった制服の寄付を募り必要な家庭へ無償で提供する制服リユース活動を、国分寺台地区で継続実施した。

また、姉崎地区では実施に向け小中学校への事業説明とチラシの配布、南総地区では実施に向けて地域関係者との調整を行った。

<ニーズ件数>

対象家庭	希望数
国分寺台小、西小、東小学校 6 学年家庭 (令和 6 年 1 月にチラシを配布) 姉崎小学校、明神小学校、青葉台小学校へ事業説明	国分寺台地区 13 世帯

<制服募集>

対象家庭	寄付件数
国分寺台中、国分寺台西中学校全家庭 姉崎中、姉崎東中学校 3 学年 (令和 6 年 3 月にチラシを配布)	国分寺台地区 50 点 姉崎地区 45 点

<制服提供>

対象家庭	提供数
国分寺台小、西小、東小学校 6 学年家庭	13 世帯 53 点

成果	国分寺台地区で継続実施し、国分寺台公民館を使用した制服の試着会も行った。姉崎地区では実施に向けた小・中学校へのアプローチを行い、事業説明やチラシ配布を行うことで多数の制服寄付につながり、南総地区では新たな取り組みとして仕組みづくりの検討に着手した。また、制服リユース事業が地域に浸透してきたことにより、地域住民からの寄付や問い合わせが増加傾向にあり、身近な地域で住民同士が支え合う「困ったときはお互いさまの地域づくり」の意識醸成が図られた。
課題・方向性	今後、対象地区の拡充に向けたニーズの把握、必要な家庭へマッチングするための制服の在庫管理体制の構築等を視野に入れながら進めていく必要がある。

③福祉バザー事業等・歳末たすけあい募金事業

歳末たすけあい運動への協力として、福祉バザーや歳末たすけあい募金を実施した。

<福祉バザー等>

地区	会場	売上額	寄付金等	合計
姉崎	姉崎保健福祉センター	336,299 円	31,389 円	367,688 円
辰巳台	辰巳公民館	137,715 円	59,561 円	197,276 円
市津	市津公民館	215,350 円	227,064 円	442,414 円
南総	南総公民館	336,977 円	195,050 円	532,027 円
有秋	有秋公民館	256,910 円	10,991 円	267,901 円
ちはら台	ちはら台コミュニティセンター	62,440 円	1,848 円	64,288 円
合計		1,345,691 円	525,903 円	1,871,594 円

〈 歳末たすけあい募金 〉

地区	募金額	募金額 (R4)	前年比
市原	624,950 円	648,930 円	△23,980 円
五井	950,510 円	824,220 円	126,290 円
三和	243,580 円	—	243,580 円
加茂	149,300 円	132,400 円	16,900 円
国分寺台	352,656 円	351,550 円	1,106 円
千種	107,420 円	109,014 円	△1,594 円
辰巳台	56,453 円	—	56,453 円
南総	15,000 円	—	15,000 円
有秋	10,000 円	—	10,000 円
街頭募金	—	93,501 円	△93,501 円
個人・団体	122,942 円	34,765 円	88,177 円
合計	2,632,811 円	2,194,380 円	438,431 円

(2) 人と人とのふれあいを育む場の推進

① 共生型事サロン事業の推進

高齢者、就学前の親子、障がい者を含む地域の誰もが参加できる地域住民の交流を目的とした場の推進を図った。

地区	会場数	開催日数	延参加者数
辰巳台	5 会場	102 日	2,090 名
市津	9 会場	52 日	1,106 名
国分寺台	4 会場	29 日	423 名
ちはら台	6 会場	123 日	1,318 名
姉崎	1 会場	11 日	420 名
有秋	2 会場	18 日	613 名
南総	13 会場	86 日	1,857 名
加茂	1 会場	4 日	119 名
五井	2 会場	11 日	311 名
市原	10 会場	159 日	2,834 名
三和	1 会場	2 日	42 名
合計	54 会場	597 日	11,133 名

② 子育てサロン (旧ふれあいサロン事業)

子育て家庭等に対して、地域住民やボランティアの参画を得て、ふれあいの場や仲間づくりの場等を提供し、地域の中で誰もが安心して暮らせるよう、福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地区	会場数	開催日数	延参加者数
姉崎	1 会場	11 日	223 名
有秋	1 会場	3 日	33 名
三和	1 会場	10 日	177 名
南総	1 会場	8 日	172 名
合計	4 会場	32 日	605 名

成果	地域共生社会づくりに向けあらゆる世代の交流を育むため、分野別を実施していた「ふれあいサロン事業」から、地域の誰もが気軽に参加でき活躍できる「共生型サロン事業」への移行を図った。54 会場、延べ 11,133 名参加(利用)いただき、新型コロナウイルスの影響により少なくなっていた対人との交流の促進につながった。
課題・方向性	今後も地域の誰もが気軽に参加でき、また、参加者も活躍できる「共生型サロン事業」への移行・推進を図っていく。

③子どもの居場所づくり活動の推進

(ア) 地域・子ども食堂、学習支援活動等

地区社協と地域の関係団体等が協働し、子どもたちが多様な地域の方々と食事等を通じたふれあいや健全育成の機会を提供し、地域で子どもたちが安心して暮らせるような福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地区	開催日数	参加者数	支援者数	内容
辰巳台	12日	1,538名	145名	地域の中で子どもたちが学校、家以外での居場所として集まれる場として開催。レクリエーションや学習支援、食事の提供を行うとともに世代間交流を図った。 【名称：地域・子ども食堂だんだん】
国分寺台	28日	570名	228名	地域の中で子どもたちが学校、家以外での居場所として集まれる場として開催。学習支援や食事の提供を通じて世代間交流を図った。 【名称：地域食堂コンパス】
姉崎	9日	144名	139名	元気な高齢者と高校生等のボランティアの参加のもと、小学生を中心とした、子どもの居場所として開催。レクリエーションや学習支援、食事の提供を行うとともに世代間交流を図った。 【名称：げんき食堂アネッサ】
五井 (9月開始)	3日	33名	63名	地域の中で子どもたちが学校、家以外での居場所として集まれる場として開催。レクリエーションや学習支援、食事の提供を行うとともに世代間交流を図った。 【名称：子ども食堂ごい51】
有秋 (9月開始)	7日	147名	94名	地域の中で子どもたちが学校、家以外での居場所として集まれる場として開催。レクリエーションを行うとともに世代間交流を図った。 【名称：あそびの広場】

子どもの居場所 合計	年度	開催日数	参加者数	支援者数
	R5年度	59日	2,432名	669名
	R4年度	49日	1,713名	520名
	増減	10日日	719名	149名

(イ) いちはら地域・子ども食堂ネットワーク

市内で地域・子ども食堂を実施する団体等の情報交換や相互交流を促進するとともに、活動の輪を広げることを目的としたネットワーク組織を設立し、その事務局として活動団体の支援の他、市民への周知啓発活動を行った。

項目	期日	参加団体数	内容
第1回連絡会	7月26日	8団体	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度いはら地域・子ども食堂ネットワークリーフレットの更新について 新規立ち上げ希望者の支援について 令和5年度いはら地域・子ども食堂ネットワーク研修会について 市原市ひときらめくこども食堂応援補助金について 令和5年度よつばちゃんのフードパントリーの実施について
研修会	10月17日	9団体	<p>【第1部：講演】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域・子ども食堂てなあに？」 (千葉県子ども食堂連絡会 代表 高橋 亮 氏) <p>【第2部：活動発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内の地域・子ども食堂実践団体の活動紹介

第2回連絡会	3月5日	11団体	<ul style="list-style-type: none"> ・広報用リーフレットについて ・令和5年度よつばちゃんのフードパントリーの実施報告について ・令和6年度いちはら地域・子ども食堂ネットワーク事業計画(案)について
千葉県子ども食堂ネットワーク会議	11月8日	—	【情報共有】 <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県健康福祉部児童家庭課より ・千葉県子ども食堂連絡会より 【事例発表】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 千葉市子ども食堂ネットワーク (2) さくらあったか食堂ネットワーク (3) 東葛草の根フードバンク
その他	随時		<ul style="list-style-type: none"> ・相談(新規立ち上げ、活動の参加について) 14件 ・助成金案内、申請支援 7件 ・食品寄付の引き渡し 6団体 60件 ・広報用リーフレット配布 2,500部 (地域関連団体や行政機関等)

成果	市内の地域食堂、子ども食堂の実践者同士のつながりの促進や、新規で立ち上げたい団体や個人の活動を支援するため、ネットワーク会議を定期開催し、積極的な情報交換を行った。また、いちはら地域・子ども食堂ネットワーク研修会では、110名の市民に参加いただき、活動の周知を図るとともに活動者(担い手)の確保につなげることが出来た。
課題・方向性	引き続き、各実践団体、行政、地域の福祉関係団体等と連携し子どもの居場所づくりを推進していく必要がある。新規に立ち上げを検討する個人・団体に対し、効果的な支援が実施できるようネットワーク加入団体を巻き込んで支援策の検討を行っていきたい。

④サロン関係者交流会の開催

(ア)子育て支援者交流会

子育て支援に携わっている支援者同士の顔の見える関係づくりを促進するとともに、今後の子育て支援活動の充実や活性化に繋げることを目的に実施した。

期日	6月27日(火)
場所	市原市姉崎保健福祉センター 体育室
参加者	78名
内容	【講演】 コロナ禍で考える！子どものからだと心 講師：日本体育大学 体育学部 教授 野井 真吾 氏 【情報交換】 子育て支援における子どもとの“遊び”と“接し方”について語り合おう 【活動紹介】 *市原市出産前後家事等サポート事業 *いちはらファミリー・サポート・センター事業 *登録ボランティアグループ「おもちゃ病院」 *いちはら地域・子ども食堂ネットワーク

成果	乳幼児期から学童期までの子育て支援に携わる方々が一同に集まることで互いの活動の情報交換・共有を図ることができ、参加者同士が顔の見える関係づくりや互いの活動の理解につながった。
課題・方向性	乳幼児期から学童期までと対象者の幅が広いため、支援者の活動がより充実するよう交流会を企画するとともに、日頃から地域の中で子育て支援者同士が情報交換・共有できる体制を目指す。

2. 小地域福祉活動の推進

(1) 地区社協の活動・運営支援

地区社協で行われる会議に地区担当職員が参加し、必要な情報提供、助言、アドバイスをを行う等積極的な支援に取り組んだ。

①地区社協事業一覧

		辰巳台	市津	ちはら台	国分寺台	姉崎	有秋	三和	南総	加茂	五井	市原
基本事業	共生型サロン事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	広報・啓発事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	歳末たすけあい運動協力事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	多様な主体との連携づくり事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	高齢者地域支え合い事業(第2層協議体)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地区行動計画策定・推進事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
先駆的・開拓的 事業	日常生活支援事業 (住民参加型在宅福祉サービス)	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	日常生活支援事業 (事業化・活性化推進サービス)	○	○			○	○	○				
	相談支援事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	人材育成事業	○	○	○	○		○		○			
	災害支援ボランティア事業	○		○	○		○	○	○	○		

②地区社協における各会議体の実施概要

年度	開催日数	延参加人数
R5年度	307日	3,657名
R4年度	317日	3,654名
増減	△10日	3名

③地区社協拠点等整備事業【再掲】

地区社協の充実・強化を図るため社会福祉基金を取崩し、拠点等整備及び維持管理費の助成を行った。
(整備順)

No.	地区名	拠点整備費	維持管理費	No.	地区名	拠点整備費	維持管理費
1	辰巳台	0円	240,000円	6	南総	0円	33,022円
2	市津	0円	240,000円	7	姉崎	0円	33,025円
3	ちはら台	0円	240,000円	8	五井	498,905円	0円
4	国分寺台	0円	60,218円	9	市原	550,000円	0円
5	有秋	0円	66,047円				
拠点整備費合計：2地区		1,048,905円		(H25度からの累計8,009,955円)			
維持管理費合計：7地区		912,312円					

④事務局運営経費【再掲】

地区社協の組織力や運営基盤の強化を図るため、事務局運営経費を交付した。

助成団体	助成金額	備考
地区社協	160,000円×11地区=1,760,000円	1地区160,000円/年

⑤地区社協車両貸与事業【再掲】

地区社協の生活課題を抱える地域住民への生活支援体制と充実強化に資するため車両の貸与（リース）を行った。

地区名	車両リース代	備考
辰巳台	199,100 円 (16,720 円/月×5 回) (16,500 円/月×7 回)	コーディネーター業務及び買い物代行として

成果	新型コロナウイルスの5類移行に伴い多くの地区社協活動が再開された。各地区においては、地域共生社会の実現に向けた活動が着実に展開され、地区担当職員による企画の段階から継続的な関わりを持ち取り組みの活性化支援を行った。
課題・方向性	引き続き、地域共生社会の実現につながるよう第6次地域福祉活動計画に基づく取り組みが着実に進められるよう地区担当職員による継続的な支援に努め、活動の充実を図る。

(2) 小域福祉ネットワークの活動・運営支援

小域福祉ネットワークで行われる会議に地区担当職員が参加し、必要な情報提供、助言、アドバイスをを行う等積極的な支援に取り組んだ。

①小域福祉ネットワーク一覧

地区名	校区名	ネットワーク名	設置年月日	安心生活見守り支援事業
辰巳台	辰巳台東小学校区	辰巳福祉ネットワーク	昭和 63 年 6 月 26 日	○
	辰巳台西小学校区			
	白幡小学校区			
市津	旧市東第二小学校区	市東第二小区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 10 月 3 日	○
	湿津小学校区	湿津小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 11 月 27 日	○
	市東第一小学校区	市東第一小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 11 月 28 日	○
ちはら台	水の江小学校区	水の江小学校区小域福祉ネットワーク	平成 18 年 7 月 15 日	○
	清水谷小学校区	清水谷小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 12 月 1 日	○
	牧園小学校区	牧園小学校区小域福祉ネットワーク	平成 22 年 11 月 1 日	○
	ちはら台桜小学校区	ちはら台桜小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 30 日	○
国分寺台	国分寺台西小学校区	国分寺台西小学校区ふれあいネットワーク	平成 19 年 2 月 24 日	○
	国分寺台小学校区	国分寺台小学校区ふれんどネットワーク	平成 22 年 2 月 19 日	○
	国分寺台東小学校区	国分寺台東小学校区思いやりネットワーク	平成 24 年 10 月 30 日	
姉崎	姉崎小学校区	姉崎小学校区小域福祉ネットワーク	平成 19 年 2 月 21 日	○
	明神小学校区	明神小学校区小域福祉ネットワーク	平成 21 年 4 月 25 日	○
	青葉台小学校区	青葉台小学校区小域福祉ネットワーク	平成 22 年 8 月 1 日	○
有秋	有秋南小学校区	有秋南小学校区安心安全ネットワーク	平成 24 年 1 月 23 日	○
	有秋西小学校区	有秋西小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 14 日	
	有秋東小学校区	有秋東小学校区福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 21 日	○
三和	市西小学校区	市西小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
	海上小学校区	海上小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
	養老小学校区	養老小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
	光風台小学校区	光風台小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○

南総	牛久小学校区	牛久小学校区小域福祉ネットワーク	平成 19 年 1 月 26 日	○
	旧内田小学校区	内田地区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 1 月 22 日	○
	寺谷小学校区	寺谷小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 2 月 21 日	○
	旧平三小学校区	平三地区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 6 月 20 日	○
	鶴舞小学校区	鶴舞地区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 7 月 8 日	○
	戸田小学校区	戸田小学校区小域福祉ネットワーク	平成 21 年 2 月 28 日	○
加茂	旧白鳥小学校区	白鳥地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 22 日	○
	旧富山小学校区	富山地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 23 日	○
	旧高滝小学校区	高滝地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 25 日	○
	旧里見小学校区	里見地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 3 月 24 日	○
五井	白金小学校区	白金小学校区スマイルネットワーク	平成 24 年 3 月 24 日	○
	若葉小学校区	わかば福祉ネットワーク	平成 24 年 4 月 12 日	○
	千種小学校区	千種小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 4 月 20 日	○
	東海小学校区	東海小・中学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 5 月 26 日	○
	国府小学校区	国府小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 10 月 9 日	○
	五井小学校区	五井福祉ネットワーク	平成 29 年 12 月 9 日	○
	京葉小学校区	京葉福祉ネットワーク	平成 31 年 2 月 24 日	○
市原	若宮小学校区	若宮小学校区まんまるネットワーク	平成 22 年 5 月 22 日	○
	石塚小学校区	石塚小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 25 日	○
	五所小学校区	五所小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 7 月 1 日	○
	菊間小学校区	菊間小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 3 月 2 日	○
	八幡小学校区	八幡小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 7 月 14 日	○
	市原小学校区	市原小学校区小域ネットワーク	平成 30 年 6 月 2 日	○
44 団体（46 学校区）			実施 42 団体 （43 校区）	

②小域福祉ネットワークにおける各会議体の実施概要

年度	開催日数	延参加人数
R5 年度	359 日	5,093 名
R4 年度	319 日	4,652 名
増減	40 日	441 名

成果	新型コロナウイルスの第 5 類移行に伴い多くのネットワーク活動が再開された。各ネットワーク会議や事業等に地区担当職員が積極的に参加し、地域課題の解決に向けた助言や必要な情報提供を行うなど、活動の活性化支援に努めた。
課題・方向性	引き続き、住民に身近な範囲における地域課題、ニーズに基づく小地域福祉活動の活性化に向けた地区担当職員による継続的な活性化支援を行い、活動の充実を図る。

(3) 地区社協連絡会の開催

地区社協活動に関する情報交換、連絡調整及び調査研究等を行うことを目的として、次のとおり地区社協連絡会を開催した。

項目	期日	議題
第1回 地区社協連絡会	5月30日	<p>【会議】</p> <p>(1) 地区社協連絡会代表及び副代表の選出について</p> <p>(2) 市原市社会福祉協議会理事及び評議員候補者の選出について</p> <p>(3) 令和5年度地区社協連絡会の開催予定について</p> <p>(4) 新たな相談支援体制の普及・運用方法について</p> <p>(仮称) 千種地区社会福祉協議会設置に向けた検討について (報告)</p> <p>【説明会】</p> <p>(1) 市社協と地区社協の関係性について</p> <p>(2) 地区社協の助成金について</p> <p>(3) 地区担当職員の役割について</p>
第2回 地区社協連絡会	7月25日	<p>【会議】</p> <p>(1) 令和5年度歳末たすけあい運動協力事業について</p> <p>(2) 基本事業「多様な主体との連携づくり事業」について</p> <p>(3) 基本事業「共生型サロン事業」について</p> <p>・(仮称) 千種地区社会福祉協議会設置に向けた検討について (報告)</p> <p>・令和5年度地区社協運営費の振込について</p> <p>【説明会(職員より)】</p> <p>(1) 「みんなの寺カフェ」の取組みについて</p>
第3回 地区社協連絡会	9月26日	<p>【会議】</p> <p>(1) 令和5年度歳末たすけあい運動協力事業について</p> <p>(2) 基本事業「多様な主体との連携づくり事業」について</p> <p>(3) 基本事業「共生型サロン事業」について</p> <p>・(仮称) 千種地区社会福祉協議会設置に向けた検討について (報告)</p> <p>・令和5年度地区社協運営費の振込について</p> <p>【説明会(実践者より)】</p> <p>(1) 「みんなの寺カフェ」の取組みについて</p>
第4回 地区社協連絡会	11月28日	<p>【会議】</p> <p>(1) 市原市地域支え合い推進協議会委員の選出について</p> <p>(2) 市社協における新たな相談支援事業の展開に向けた考え方(案)について</p> <p>(3) 各地区社協における事務局拠点の整備状況及び活用状況について</p> <p>(4) 各地区社協における事務局運営体制について</p>
第5回 地区社協連絡会	1月30日	<p>【会議】</p> <p>・報告事項</p> <p>(1) (仮称) 千種地区社会福祉協議会設置に向けた検討経過について</p> <p>(2) 令和5年度歳末たすけあい運動協力事業の実施報告について</p> <p>(3) 令和5年度よつばちゃんフードパントリーの実施報告について</p> <p>・協議事項</p> <p>(1) (仮称) いちはら地域連携型相談支援事業要綱(案)について</p> <p>(2) 地区社会福祉協議会助成金交付基準(見直し案)について</p>
第6回 地区社協連絡会	3月15日	<p>【会議】</p> <p>・報告事項</p> <p>(1) (仮称) 千種地区社会福祉協議会設置に向けた検討経過について</p> <p>・協議事項</p> <p>(1) (仮称) お互いさまの地域づくり事業実施要領(案)について</p> <p>(2) 地区社会福祉協議会助成金交付基準(見直し案)に基づく令和6年度地区社会福祉協議会補助金積算額(案)について</p> <p>【行政説明】</p> <p>(1) 地区社会福祉協議会の活動支援に対する補助について</p> <p>(2) 子ども家庭センターの概要について</p>

成果	隔月に定期的な会議を開催したことで、第6次地域福祉活動計画を踏まえた、地区行動計画における施策の推進方策等、市社協と一体となり地域福祉を推進していくために必要な情報共有及び意見交換の場となった。
課題・方向性	今後も隔月開催を継続し、本会と連携・協働した地域福祉を推進するための情報共有及び地域福祉活動の活性化に向けた検討の場として活用していく。また、より地区社協からの意見を引き出し、活動上の諸課題を把握しながら、地区からの意見を行政や本会に反映させられるよう「ボトムアップ型」の会議となるような会議運営に努める。

(4) いちはら小域福祉ネットワーク連絡会議の開催

小域福祉ネットワークの更なる推進を図るため、組織間の連携体制を構築するとともに、併せて市全域の地域福祉推進の在り方について検討・協議することを目的に次のとおり開催した。

項目	期日	議題
第1回 いちはら小域福祉ネットワーク連絡会議	9月20日	【講演】 ・地域住民の居場所づくり活動について ・「みんなの寺カフェ」の取り組みについて 講師：西光寺 副住職 吉弘 一秀氏 【全体会】 ・意見交換（グループワーク）
第2回 いちはら小域福祉ネットワーク連絡会議	3月19日	【会議】 ・代表・副代表の選出 【報告】 ・能登半島地震における避難所での活動について 報告者：市原市危機管理課 【全体会】 ・避難所運営ゲーム HUG 講師：公益社団法人 SL 災害ボランティアネットワーク

成果	第6次活動計画に基づく共生型サロン、子どもの居場所づくりの取り組みを住民に身近な地域で推進するため「地域住民の居場所づくり活動」をテーマに、地域で必要な活動の視点などに係る意見交換を行い、活動実践者の意識の醸成を図った。また、近年の頻発する自然災害に備え災害時における地域でのネットワークの役割について考える契機として避難所での活動を模擬体験し、意識啓発を図った。
課題・方向性	各ネットワークが地域課題の解決に向けた自発的な取り組みが実践できるよう、成功事例などを用いた講義や実践報告、また、グループワークなどを通じ活動上の諸課題などの意見交換を行い、より発展的な活動につながるような会議運営に努める。

地域のつながりを豊かにするための仕組みづくり【共創】

1. 地域で孤立させない取組の強化

(1) 寄り添い支えていく体制の強化

①新たな相談支援体制の構築

(ア) いちはら総合相談・生活支援事業（市社協窓口相談）

誰もが住み慣れた地域で、自立して暮らせるまちづくりを目指して、住民が抱える生活課題の解決に向けて、包括的かつ重層的な相談支援を行い、課題の解決に向けた個別支援や関係機関との連絡調整を行った。

年度	生計	職業生業	教育子育て	障がい	療養健康	生活	償還	その他	合計
R5年度	282件	4件	180件	8件	3件	21件	53件	15件	566件
R4年度	369件	2件	161件	6件	3件	15件	14件	10件	580件
増減	△87件	2件	19件	2件	0件	6件	39件	5件	△14件

(イ) 各地区における相談事業

地域住民が気軽にできる窓口であり、市社協や関係機関等へのつなぎ役・橋渡し役を担う相談支援事業を行った。

地区	開催日数	延相談人数	延支援者数	内容等
辰巳台	24日	19名	24名	地区社協事業の居場所づくり事業において、相談ブースを設置し「なんでも相談」を実施。月2回
市津	102日	55名	204名	毎週月・水曜日の10時～12時、拠点を活用した相談支援活動を実施。
国分寺台	77日	113名	141名	地区内の様々な問題をサロン開設時や電話、事務所への来所で受付、課題の発見とその解決に向けた事業展開を実施。
ちはら台	250日	40名	336名	地区社協事務所にて相談ブースを設け、週5回、10時～12時に日常生活上の困りごと、助け合い利用相談などを窓口、電話対応等で実施。また、専門機関の協力を得て、月1回「福祉総合相談窓口」を設置。
姉崎	12日	9名	24名	毎月第1水曜日13時～16時に地区社協理事がアネッサ相談室にて実施。
有秋	32日	322名	74名	地域住民の悩み事や困りごとに対し、毎月第2、第4月曜日10時～12時にオアシス有秋にて民生児童委員、地区社協関係者が対応。
三和	10日	42名	134名	子育てサロン開催時に気軽に相談できる場として実施。
南総	46日	4名	79名	南部保健福祉センター相談室において、毎週土曜日13時～15時相談窓口を開設。また、共生型サロン開設時に会場内の一角に相談ブースを設置した。
市原	11日	0名	72名	共生型サロン事業（旧：子育てサロン）開催時に気軽に相談できる場として実施。
五井	10日	0名	20名	五井公民館において、毎月第1木曜日10時30分～12時で誰でも気軽に相談に来られる場として開設。
加茂	365日	146名	60名	地区内の社会福祉法人と連携し、施設内に誰でも相談できる窓口を設置。

年度	開催地区	開催日数	延相談者数	延支援者数
R5年度	11地区	939日	750名	1,168名
R4年度	11地区	896日	427名	1,238名
増減	—	43日	323名	△70名

成果	<p>本会の相談窓口では、経済的な課題を抱える世帯を中心に、生活資金貸付（緊急小口資金等）の相談を切り口に、専門機関等と連携しながら生活の改善に向けた支援に努めた。また、地域の相談活動では、地域の身近な相談の場として住民に安心感を与えるとともに、困難ケースにおいては各地区で構築した相談プロセスに基づくケース会議を複数の地区で試行的に実施し、必要な支援や地域資源につなぐための検討を行った。</p> <p>本会や地域での相談支援活動の状況を踏まえ、住民が抱える潜在的ニーズの早期発見や生活課題の深刻化の軽減を図り必要な支援につないでいくことが必要なため、地域と密に連携・協働しながら取り組む相談支援事業の展開に向けた新たな事業要綱を整備した。</p>
課題・方向性	<p>新たに開始する「いちほら地域連携型相談支援事業」の着実な推進にあたり、相談支援事業の担当職員を配置し、効果的な展開を図るための研修等の実施や本会・地域での相談支援活動の活性化の支援に努める。</p>

②民生委員・児童委員活動の支援

市原市民生委員児童委員協議会の事務局として、その活動の推進を図った。

期日		事業名	人数	場所
月	日			
4	10	市民児協会計監査	5名	市社協
	18	新任民生委員児童委員研修会	11名	千葉市文化センター

	19	市民児協第1回正副会長・部会長会議	5名	市社協
	28	市民児協第1回理事会	16名	市社協
	28	市民児協代議員会	37名	市社協
5	5～11	児童福祉週間	全委員	市内各地
	12～18	「民生委員・児童委員の日」活動強化週間	全委員	市内各地
	29	県民児協第1回評議員会	1名	千葉県社会福祉センター
6	26	市民児協第1回主任児童委員部会	21名	市社協
	28	市民児協第2回正副会長・部会長会議	5名	市社協
7	21	市民児協第1回地域福祉推進部会	22名	市社協
	25	六市民児協会長・副会長研修会	3名	市社協
8	17	新任民生委員児童委員研修会	10名	千葉県社会福祉センター
9	22	市民児協第3回正副会長・部会長会議	5名	市社協
	27	中堅民生委員児童委員研修会	83名	君津市民文化ホール
10	20	市民児協第2回地域福祉推進部会	22名	市社協
	27	市民児協第2回主任児童委員部会	23名	市社協
	31	事例検討研修会	22名	千葉市民会館
11	14	第73回千葉県社会福祉大会	26名	青葉の森芸術文化ホール
	15	市民児協第4回正副会長・部会長会議	5名	市社協
	20～22	第92回全国民生委員児童委員大会	1名	広島グリーンアリーナ
	29	市民児協全体研修会	301名	市原市市民会館
12	6	新任民生委員児童委員研修会	4名	千葉県社会福祉センター
	8	市民児協第2回理事会	14名	市社協
	8	市民児協理事研修会	14名	千葉市民会館
	21	単位民児協会長研修会	8名	君津市民文化ホール
1	31	市民児協第5回正副会長・部会長会議	5名	市社協
2	16	市民児協第3回地域福祉推進部会	23名	市社協
	19	市民児協第3回主任児童委員部会	23名	市社協
	21	相談技法研修会	9名	千葉県社会福祉センター
3	1	主任児童委員研修会	20名	千葉市民会館大ホール
	22	市民児協合同部会	36名	市社協
	27	市民児協第6回正副・部会長会議	5名	市社協

成果	地域福祉推進部会と主任児童委員部会で検討してきた相談支援体制の充実強化において各地区民児協単体にチーム・班体制を構築することができた。定例会議では、各地区で事例を用いたケース検討の場を設け、相談対応の手法や必要な視点など活発な意見交換を行うとともに、委員の資質向上や新任委員などへのフォローアップにつながった。また、相談の入り口を拡充するため主任児童委員部会を中心に放課後児童クラブへのアプローチを行い関係性の構築に努めた。
課題・方向性	引き続き、各地区で構築したチーム・班体制の運用と定例会議における相談ケースの検討を着実に推進できるよう、部会等において進捗状況を定期的に共有するとともに、地区担当職員による各地区での活性化支援に取り組むこととする。

③安心生活見守り支援事業

一人暮らし高齢者や障がい者世帯、高齢者のみ世帯等の社会的な孤立を防ぐために、定期的な見守り・声掛けを行う安心生活見守り支援事業を実施した。

【地区別実績】

地区	見守り希望者数	訪問員数	延訪問回数
辰巳台	37名	62名	478回
市津	20名	59名	870回
ちはら台	22名	23名	573回
国分寺台	48名	38名	645回

姉崎	166名	184名	2,133回	
有秋	19名	29名	96回	
三和	124名	90名	2,101回	
南総	144名	140名	1,972回	
加茂	64名	90名	844回	
五井	156名	150名	1,890回	
市原	295名	145名	5,241回	
年度	実施数	見守り希望者数	安心訪問員数	延訪問回数
R5年度	41 ネットワーク (43 小学校区)	1,095名	1,010名	16,843回
R4年度	41 ネットワーク (43 小学校区)	1,100名	1,268名	17,753回
増減	—	△5名	△258名	△910回

成果	新型コロナウイルスの第5類移行に伴い、従前の対面による見守り活動を実施することで、対人との関わりが薄くなっていた支援対象者に安心感をもたらすとともに、対面が難しいケースでも、他の手段を用いて活動するなど孤立防止に向けた一助を担うことができた。
課題・方向性	支援が必要な方が支援につながるよう地域の関係者と連携した体制の強化を図るとともに、引き続き、訪問員が安心して活動できるよう各地域でのフォローアップ研修や交流会を実施しながら活動の充実に努めていく。

④地域福祉支援事業

歳末たすけあい運動の財源を活用し、歳末の時期に地区社協や小域福祉ネットワークが行う先駆的な地域福祉活動の普及促進に向けた助成を行った。

内容	事業実績(R5度)	R4年度	前年度比較
地域福祉支援事業	導入型：280,000円(7団体) 交流型：1,052,000円(19団体) 個別(訪問)支援型：650,000円(11団体) 合計：1,982,000円(37団体)	1,410,000円	572,000円

成果	新型コロナウイルスの第5類移行に伴い、身近な地域で居場所づくり、災害、個別支援型の取り組みが展開され、前年比10団体増の37団体へ助成金を交付し事業の活性化につながった。
課題・方向性	歳末の時期に取り組んだ事業が、日頃の地域福祉活動にて発展的に展開されるよう、企画の段階から積極的に地区担当職員が関わりながら助言等を通じた支援に努めたい。

⑤地域主体の子どもの見守り強化事業

ちはら台地区をモデル地区に、満2歳から学齢前の未就学児を養育している家庭に対し、地域の協力者による戸別訪問などを通じ、子どもや家庭の状況を地域でゆるやかに見守る活動を実施した。

地区	延活動者数	訪問家庭数	延訪問回数
ちはら台地区	188名	20世帯	94回

成果	戸別訪問により、対象未就学児の状況を確認することができた。また、対象家庭に地域イベントやサロン活動を周知することで、地域と子育て世帯の交流が生まれ、地域で主体的・継続的に子どもを見守る気運が高まった。
課題・方向性	子育て世帯に対し孤立・孤独感を抱かせない取組みを継続するとともに、地域全体で子どもをゆるやかに見守る体制の構築に取り組む。

②各種資金貸付事業

(ア) 生活福祉資金貸付事業

市内に居住する低所得世帯などで、経済的な課題の改善を図るために必要な生活資金などを貸付け、その後の安定した生活が営めるよう、民生委員・児童委員をはじめ各専門機関等と連携した援助指導に努めた。

年度	資金種類	相談件数	申請件数	貸付	
				件数	金額
R5年度	総合支援資金	2件	0件	0件	0円
	福祉費	31件	9件	7件	4,594,100円
	緊急小口資金	181件	127件	120件	7,140,000円
	教育支援資金	41件	34件	34件	31,055,600円
	不動産担保型生活資金	1件	0件	0件	0円
	臨時特例つなぎ資金	0件	0件	0件	0円
	合計	256件	170件	161件	42,789,700円
R4年度	総合支援資金	0件	0件	0件	0円
	福祉費	3件	3件	2件	1,767,000円
	緊急小口資金	161件	146件	144件	8,167,500円
	教育支援資金	22件	22件	22件	43,659,600円
	不動産担保型生活資金	0件	1件	0件	0円
	臨時特例つなぎ資金	6件	6件	6件	190,000円
	小計	192件	178件	174件	53,784,100円
	新型コロナウイルス特例貸付 (緊急小口資金、総合支援資金)	360件	243件	101件	25,250,000円
	合計	552件	421件	275件	79,034,100円
前年度比較増減		△296件	△251件	△114件	△36,244,400円

※新型コロナウイルス特例貸付事業については、令和4年9月末日をもって受付を終了。

(イ) 療養資金貸付事業（市受託事業）

高額な療養費の支払いが困難な世帯に対し、療養費の支払いに必要な資金の貸付を実施した。

【貸付状況】

年度	相談件数	申請		貸付	
		件数	金額	件数	金額
R5年度	3件	2件	280,000円	2件	280,000円
R4年度	3件	3件	1,608,000円	3件	1,608,000円
増減	0件	△1件	△1,328,000円	△1件	△1,328,000円

(ウ) 福祉資金貸付事業（自主事業）

市内に居住する低所得世帯を対象に、生活の安定や自立更生に向けた必要な助言指導を行うとともに、生活のつなぎ及び応急的な生活資金の貸付を実施した。

年度	資金種類	相談件数	申請件数	貸付	
				件数	金額
R5年度	応急生活費	5件	3件	3件	37,000円
R4年度	応急生活費	9件	3件	3件	45,000円
前年度比較増減		△4件	0件	0件	△8,000円

(エ) 応急法外援護

低所得で不測の事態に陥り、緊急な法外援護が必要な方に対し少額の資金を交付した。

R5 年度		R4 年度		前年度比較増減	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
67 件	183,770 円	100 件	296,000 円	△33 件	△112,230 円

成 果	経済的な課題を抱える世帯に対し、家計の改善や生活の安定に向けた公的給付へのつなぎなどの必要な生活資金の貸付を行うことで、世帯の自立に向けた一助を担えた。また、本会が実施している「いちほらフードネット」と連携することで、金銭だけではなく現物給付など生活の状況に応じた支援を行うことができた。
課題・方向性	資金貸付が一時的（応急的な）援助に留まり、課題の根本解決に至らず再相談となるケースもあることから初期相談から主訴を見極め、必要に応じ適切な専門機関等と連携した支援の強化が必要である。

(オ) 特例貸付債権管理事業（新規事業）

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例措置である緊急小口資金等特例貸付を利用した借受人に対し、市内の専門機関や地域関係者と連携し、借受人が自立した生活を営むことができるよう個別の状況に応じた償還指導や生活再建に向けたフォローアップ支援を行った。

種別	相談件数	内容
相談受付	受電相談	156 件 借受人から受電し、受付した相談件数
	来局相談	35 件 借受人が来局し、受付した相談件数
アウトリーチ	架電相談	277 件 市社協から架電し、対応した相談件数
	訪問回数	305 件 借受人宅を訪問した回数
	訪問相談	57 件 借受人宅を訪問し、対応した相談件数（後日対応含む）

※生活状況の実態把握を通じ、償還方法の検討及び必要な支援に関する情報提供やつなぎなどを行った。

成 果	新規事業開始に伴い必要な業務体制（人員配置含む）を整備し、償還が滞る借受人を中心に、電話や訪問等によるアウトリーチを行い、個々の生活状況や家計状況に応じた生活再建（償還方法を含む）に向け、適切な支援につなぐためのフォローアップに努めました。
課題・方向性	事業を開始し間もないため、他市他県等での取組事例等がなく、アプローチ方法や支援の方策を模索しながら業務に取り組む状況となっている。今後は、他市社協等と事業の進め方に係る情報交換を図りながら、より効果的なフォローアップ支援を図れるよう努めたい。

③日常生活支援事業

公的制度や民間サービスで補えない住民の日常生活上の生活課題を解決するために、住民相互による支え合い・助け合いの活動を行った。

(ア) 住民参加型在宅福祉サービス

日常生活上のちょっとした困りごとの解決に取り組む住民相互の生活支援サービス等の個別支援活動を行った。

地 区	開設日数	延利用者数	延支援者数	内 容 等
辰巳台	328 日	969 名	1,175 名	地区内に居住する高齢者や障がい者、その他日常生活に手助けを必要とする人たちに対して、日常支援、子育て支援等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい辰巳ねこの手】
ちはら台	222 日	248 名	263 名	地区内に居住する日常生活に手助けを必要とする人たちに対して、家事支援、付添支援等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい隊】
三和	440 日	315 名	608 名	地区内に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯に対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい三和】
有秋	766 日	418 名	1,176 名	地区内に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯に対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。今後地区内に活動を広めていく。 【名称：くらしのささえあい】

市津	146日	146名	399名	地区内に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯をに対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 【名称：市津 まごの手】
国分寺台	6日	6名	18名	地区内に居住する高齢者世帯や生活困窮者等で、各関係団体より支援依頼があった人に対して、屋内外の有償サービスを提供。
姉崎	92日	50名	20名	地区内に居住する高齢者世帯や生活困窮者等で、各関係団体より支援依頼があった人に対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 【名称：姉崎チョコっとサービス】
南総	4日	4名	14名	地区内に居住する高齢者世帯や生活困窮者等で、各関係団体より支援依頼があった人に対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 ※令和5年度は試行実施
加茂	8日	9名	26名	地区内（白鳥地区）に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯に対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 ※令和5年度は試行実施

年度	実施地区	開設日数	延利用者数	延支援者数
R5年度	9地区	2,012日	2,165名	3,699名
R4年度	6地区	1,611日	2,092名	3,073名
増減	3地区	401日	73名	626名

(イ) 事業化・活性化推進サービス

住民参加型在宅福祉サービスにつなげるための取り掛かりとして部分的に支援する活動を行った。

地区	開設日数	延利用者数	延支援者数	内容等
辰巳台	23日	182名	23名	高齢者を主な対象として、社会福祉施設（辰巳萬緑苑）の協力を得て月2回買い物ツアーを実施。
市津	24日	447名	112名	65歳以上の一人暮らし高齢者、65歳以上で構成される世帯、自力での買い物に困難を抱える方を対象として、社会福祉施設（清流園、グリーンホーム）の協力を得て月2回買い物ツアーを実施。
有秋	24日	285名	72名	65歳以上の一人暮らし高齢者、障がい者で自力での買い物に困難を抱える方を対象として、社会福祉施設（グランモア和光苑）の協力を得て月1回買い物ツアーを実施。
三和	31日	201名	90名	光風台、市西、海上地域で70歳以上の高齢者のみの世帯を対象として、社会福祉施設（向日葵、あじさい苑、グリーンライフ・ネクステ）の協力を得て買い物ツアーを実施。
姉崎	4日	24名	6名	青葉台地域で、自力での買い物に困難を抱える方を対象として、社会福祉施設（和気あいあい）の協力を得て月1回買い物ツアーを実施。

年度	実施地区	開設日数	延利用者数	延支援者数
R5年度	5地区	106日	1,139名	303名
R4年度	4地区	87日	920名	275名
増減	1地区	19日	219名	28名

(ウ) 日常生活支援事業交流会

日常生活支援事業実践者同士の交流や情報交換の場を提供することで、顔の見える関係づくりを促進するとともに、未実施地区における取組の契機になることを目的に下記の通り実施した。

期日	1月15日（月）
場所	市原市社会福祉協議会3階会議室
参加者	日常生活支援事業実施団体代表、日常生活支援事業コーディネーター、地区社会福祉協議会関係者(21名)

内容	【基調説明】 市社協「日常生活支援事業が目指すもの」 【実践発表】 ・有秋地区社協「くらしのささえあいの取組みについて」 ・姉崎地区社協「姉崎チョコっとサービスの取組みに向けて」 【情報交換】 「日常生活支援事業について語り合おう」
成果	住民参加型在宅福祉サービスでは、地域ニーズ等を踏まえ新たに3地区で仕組みづくりを検討し試行実施に至った。また、事業化・活性化サービスでは、1地区で社会福祉法人と連携し買い物ツアーを開始した。また、交流会では、事業に関わるコーディネーターを中心に開催し、支援活動を通じた生活課題の把握や解決に向け適切な支援につなぐことの重要性や必要な視点について理解を深めることができた。
課題・方向性	市内全域での取組みの拡充を目指し、地区担当職員を通じて地域ニーズ等の把握に努めるとともに、未実施地区での事業化に向けた地域関係者等への積極的な働き掛けや企画提案を行っていく。

④ファミリー・サポート・センター事業

公的な子育てサービスで対応できない短時間の預かり等、住民相互（協会員、利用会員）による援助活動を通じた子育て環境（仕事と育児の両立）を支援するため、いちばらファミリー・サポート・センター事業を実施した。

年度	相談件数（延数）	利用会員登録者数	協会員登録者数	両方会員登録者数
R5年度	86件	285名	66名	29名
R4年度	68件	273名	69名	29名
増減	18件	12名	△3名	0名

【活動状況】

（令和6年3月31日現在）

活動内容	月												R5度	R4度	増減
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
保育所・幼稚園の登園前の預かり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6件	0件	6件
保育所・幼稚園の送り	0	0	1	0	0	0	0	18	0	0	2	6	27件	0件	27件
保育所・幼稚園の迎え	10	10	10	10	6	7	8	25	7	8	7	8	116件	24件	92件
保育所・幼稚園の帰宅後の預かり	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	2	7件	0件	7件
学童の放課後の預かり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	4件	△4件
放課後児童クラブの迎え	2	2	2	2	1	2	2	3	2	3	0	2	23件	4件	19件
放課後児童クラブ終了後の預かり	2	2	2	2	3	2	2	3	2	2	0	2	24件	4件	20件
子どもの習い事等の場合の援助	14	13	15	20	19	18	27	22	22	26	19	16	231件	290件	△59件
保育所・学校等休み時の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	2件	△2件
保育所等入所前の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件
保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件
保護者等の求職活動中の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1	6件	3件	3件
保護者等の冠婚葬祭による外出、他の子どもの学校行事の場合の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2件	4件	△2件
保護者等の外出の場合の援助	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	5件	4件	1件
保護者等の病気、その他急用の場合の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	1件	△1件
小学校登校前の預かり	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2件	0件	2件
小学校の送り	1	0	0	1	0	0	0	0	0	5	8	10	25件	-	25件

小学校の迎え	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	-	0件
小学校登校前の利用会員宅への迎え	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2件	-	2件
その他	4	7	4	5	6	6	7	6	8	12	15	16	96件	43件	53件
合計	36	34	34	42	37	35	47	77	43	62	54	71	572件	383件	189件

成果	新型コロナウイルスの第5類移行に伴い支援件数は前年度より増加傾向となった。利用促進のための広報活動や協力会員の確保に向けた市民大学での講義、市担当課と連携し養成講座を実施した。また、協力会員の研修交流会では「子どもとの遊び」をテーマに風船遊びの体験などを行い、活動意欲の促進につながった。
課題・方向性	協力会員の多い地区と少ない地区と偏りがあり、利用会員のニーズに対応できないこともあるため、引き続き、SNSや広報用動画なども活用しながら、幅広い年齢層の方へ事業周知と協力会員募集を行っていく。

⑤ 出産前後家事等サポート事業

妊娠中や出産前後の不安定な時期に、家事または育児支援等を必要とする家庭に、ホームヘルパーを派遣し、子育てしやすい環境づくりに向けたコーディネート業務を展開した。

年度	相談件数（延数）	利用者数（実人数）	利用回数（延数）	利用時間（延時間）
R5年度	49件	113名	347回	683時間
R4年度	41件	66名	155回	309時間
増減	8件	47名	192回	374時間

【活動状況】

（令和6年3月31日現在）

活動内容	月												R5年度	R4年度	増減	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
家事援助	食事の準備・後片付け	17	12	11	33	27	21	13	34	22	28	20	28	266件	123件	143件
	衣類の洗濯・補修	6	4	8	3	18	12	8	18	6	6	6	15	110件	32件	78件
	居室等の掃除・整理整頓	12	12	20	19	21	20	11	31	18	19	14	18	215件	112件	103件
	生活必需品の買い物	1	0	0	8	2	1	0	1	0	5	1	2	21件	1件	20件
	関係機関との連絡	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1件	0件	1件
	その他必要な家事援助	3	0	0	0	1	3	5	0	0	0	0	0	12件	9件	3件
	小計	39	28	39	63	69	57	37	84	47	58	41	63	625件	277件	348件
育児援助	授乳	0	0	2	1	10	3	0	0	4	3	6	11	40件	8件	32件
	おむつ交換	1	0	8	4	9	4	5	2	4	2	2	10	51件	14件	37件
	沐浴介助	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3件	8件	△5件
	適切な育児環境の整備	0	0	0	1	7	0	0	0	0	0	1	10	19件	9件	10件
	その他必要な育児援助等	7	4	14	11	16	10	9	5	4	7	6	6	99件	17件	82件
	小計	8	4	24	17	42	17	15	9	12	12	15	37	212件	56件	156件
合計	47	32	63	80	111	74	52	93	59	70	56	100	837件	333件	504件	

成果	利用料金の見直しに伴い多子世帯の利用が急増し、利用者数、利用回数・時間が大幅に増加した。利用者が増加したことを受け、市担当課と連携し新規協力事業者の確保に努め、2事業者の確保につながり、支援を断ることなくマッチング出来た。また、市内産婦人科や関連機関に働きかけ、事業周知に努めた。
課題・方向性	引き続き、市担当課と連携し新規協力事業者の開拓に取り組んでいく。また、市内全域で同水準の支援が提供できるよう事業所間の情報共有を図るための意見交換会の実施も検討していく必要がある。

⑥送迎ボランティアサービス事業

既存の交通手段での移動が困難な高齢者及び障がい者（児）等に対し、住民参加の相互援助による外出支援を行ない、社会参加の促進と地域福祉の推進を図った。

(ア) 実施状況

- ・利用者 173 世帯 189 名（令和 6 年 3 月 31 現在登録者）
- ・協力ボランティア 30 名（ ” ” ）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R5 年度	R4 年度	増減
延利用件数	24	31	29	37	29	33	34	24	28	26	21	23	339 件	288 件	51 件
目的別利用件数	福祉施設利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	0 件	0 件
	公共機関利用	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1 件	0 件	1 件
	行事への参加	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	0 件	0 件
	通院	23	31	28	37	29	33	34	24	28	26	23	337 件	287 件	50 件
	その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 件	1 件	0 件

(イ) 送迎ボランティア養成講座

送迎ボランティアサービス事業協力者を育成することを目的として実施。

期 日	11 月 30 日（木）
場 所	市原市社会福祉協議会 3 階会議室
参加者	一般市民 15 名
内 容	<p>【説明】送迎ボランティアサービス事業について 説明：市原市社会福祉協議会職員</p> <p>【講義】安全運転の心得 講師：一般社団法人日本自動車連盟千葉支部 谷 宗一郎 氏</p> <p>【体験談及び交流】 送迎ボランティア協力者との交流</p>

(ウ) 送迎ボランティア研修会

送迎ボランティアサービス事業を行うにあたり、協力者の活動をよりスムーズに行えるよう資質向上を目指すことを目的として実施。

期 日	3 月 1 日（金）
場 所	市原市社会福祉協議会 3 階会議室
参加者	送迎ボランティアサービス事業協力会員 15 名
内 容	<p>【講義】「認知症サポーター養成講座」 講師：地域包括支援センターこくぶんじ台 宮崎 倫子 氏 地域包括支援センターこくぶんじ台 戸田 三恵子 氏 地域包括支援センターたいよう 柴尾 直美 氏 地域包括支援センターごい 片見 勇一郎 氏</p> <p>【情報交換】 「協力者間の交流会」</p>

成 果	送迎ボランティア養成講座では、送迎車両の配車場所である三和・南総地区の地区社協・小域福祉ネットワークに働き掛けたことで、三和・南総地区を含め 15 名の参加を得られた。その結果、新規協力者 3 名の確保に繋がり、事業全体で 339 件の支援を実施することができた。また、継続的・安定的な事業の運営に向け市担当課と調整し、老朽化した車両 2 台を入替することができた。
課題・方向性	引き続き、事業 PR を強化するとともに、地区社協やネットワーク等と連携した養成講座の開催などを検討し、新規協力者の確保につなげたい。

⑦福祉カー貸出事業

心身障がい者（児）、高齢者等の社会参加の促進と福祉の向上を図るため、障がい者、高齢者等及びその家族並びに社会福祉施設等に対し、リフト付きワゴン車の貸出を実施した。

(ア) 利用件数

項目	月	利用状況	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R5年度	R4年度	増減
			心身障がい者（児）及びその家族	件数	3	5	2	6	5	4	4	4	6	3	4	3	7
	日数	6	6	3	8	7	6	7	11	4	5	4	12	79日	33日	46件	
高齢者及びその家族	件数	1	0	0	1	1	1	1	1	1	2	2	0	1	11件	6件	5件
	日数	2	0	0	1	2	1	1	1	6	2	0	1	17日	16日	1日	
社会福祉団体及び社会福祉施設	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件
	日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0日	0日	0日
社会福祉ボランティア	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件
	日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0日
合計	件数	4	5	2	7	6	5	5	7	5	6	3	8	63件	37件	26件	
	日数	8	6	3	9	9	7	8	12	10	7	4	13	96日	49日	47日	

(イ) 利用内容

項目	内容	利用状況	旅行等	買物等	通院等	行事等	その他	合計
心身障がい者（児）及びその家族	件数	9件	9件	32件	2件	0件	52件	
	日数	21日	19日	37日	2日	0日	79日	
高齢者及びその家族	件数	0件	0件	11件	0件	0件	11件	
	日数	0日	0日	17日	0日	0日	17日	
社会福祉団体及び社会福祉施設	件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
	日数	0日	0日	0日	0日	0日	0日	
社会福祉ボランティア	件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
	日数	0日	0日	0日	0日	0日	0日	
合計	件数	9件	12件	43件	2件	0件	63件	
	日数	21日	19日	54日	2日	0日	96日	

成果	市担当課と連携し、利用促進に向けた調整を行った。新型コロナウイルスの第5類移行に伴い、昨年度より利用件数が増加し、新規利用者も増加した。
課題・方向性	引き続き、市担当課と連携した広報活動に努め利用促進を図る。

⑧居宅介護支援事業所の運営

介護保険で要介護と認定された高齢者等に対し、サービス提供事業者、介護保険施設、関係行政機関等と連携を図りながらケアプランを作成し、自立した生活を支援した。

【ケアプラン作成状況】

年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
R5度利用者	91	92	93	93	100	100	103	109	102	100	102	106	1,191名	99名
R4度利用者	104	104	102	93	95	94	91	90	93	86	91	92	1,135名	94名
増減	△13	△12	△9	0	5	6	12	19	9	14	11	14	56名	4名

(ア) 介護予防給付ケアマネジメント業務（受託事業）

市原市内の地域包括支援センターから委託を受け、介護保険で要支援と認定された高齢者等に対し、サービス提供事業者、介護保険施設、関係行政機関等と連携を図りながらケアプランを作成し、自立した生活を支援した。

【ケアプラン作成状況】

年度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
R5 度利用者	19	19	21	25	27	27	28	28	31	36	38	39	338 名	28 名
R4 度利用者	24	26	26	21	19	18	18	17	16	16	17	17	235 名	19 名
増 減	△5	△7	△5	4	8	9	10	11	15	20	21	22	102 名	8 名

(イ) 要介護認定調査業務（受託業務）

市原市及び他市町村からの委託を受け、介護保険要介護・要支援認定に係る調査業務を行った。

【認定調査状況】

年度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
R5 度利用者	6	5	4	8	8	5	7	11	7	11	12	7	91 名	8 名
R4 度利用者	11	7	4	4	1	8	5	5	4	4	6	8	67 名	5 名
増 減	△5	△2	0	4	7	△3	2	6	3	7	6	△1	24 名	3 名

成 果	職員 1 名を補充したとで利用件数は増加した。職員の人材育成に力を入れるとともに、ケアマネジメント力の向上を図るため、事業所全体として研修や勉強会等へ積極的に参加し、複合的な課題を抱える利用者（世帯）への支援に対応出来るよう、様々な分野と連携体制を構築することができた。
課題・方向性	複合的な課題を抱えている利用者が増加していることから、他の分野と課題解決に向けた更なる連携を図りながら利用者の自立に向けた生活の援助に努めるとともに、安定的、継続的な事業運営に向けた人材確保と育成に力を入れていく。 また、介護保険制度改正に伴う国の動向を把握し、必要なケアマネジメントが行えるよう事業所としての環境整備に努める。

2. 地域福祉力の向上

(1) 地区行動計画の推進

①地区行動計画推進委員会の開催

「第 6 次市原市地域福祉活動計画」（令和 3 年 9 月策定）が目指す地域共生社会の実現や目標を共有化し地区社協単位（中域福祉圏域）で策定した「第 2 次地区行動計画」の実行性を高め、着実に施策や事業を展開するため、地域の福祉活動実践者で構成する「地区行動計画推進委員会」を開催し、取り組みの検証・評価や推進方策の検討を行った。

地区名	名 称	設置日	R5 年度開催回数
姉崎地区	姉崎地区福祉行動計画推進委員会	平成 31 年 1 月 22 日	1 回
五井地区	五井地区行動計画推進委員会	平成 30 年 12 月 12 日	1 回
市原地区	市原地区行動計画推進委員会 (市原地区第 2 層協議体)	平成 31 年 3 月 14 日	2 回
辰巳台地区	辰巳台地区行動計画推進委員会 (辰巳台地区第 2 層協議体)	平成 30 年 12 月 8 日	3 回
市津地区	市津地区地域福祉行動計画推進委員会 (市津地区第 2 層協議体)	平成 30 年 11 月 19 日	4 回
三和地区	三和地区行動計画推進委員会	平成 31 年 2 月 19 日	-
南総地区	南総地区行動計画推進委員会 (南総地区第 2 層協議体)	平成 30 年 11 月 25 日	3 回

加茂地区	加茂地区社協役員会・理事会 (地区行動計画推進委員会機能を担う)	平成 31 年 2 月 24 日	1 回
有秋地区	有秋地区行動計画推進委員会 (有秋地区第 2 層協議体)	平成 30 年 4 月 20 日	6 回
ちはら台地区	ちはら台地区福祉行動計画推進委員会	平成 30 年 9 月 30 日	1 回
国分寺台地区	支え合いのまちづくり計画推進委員会 (国分寺台地区第 2 層協議体)	平成 31 年 1 月 20 日	3 回

※「第 2 層協議体」と機能が混在していることもあり、地区によっては委員を兼務し、両会議を一体的に開催、運営した。(姉崎、五井、三和、加茂、ちはら台地区は推進委員会を単独で開催)

成果	地区社協単位の「地区行動計画推進委員会」にて各地区で策定した「第 2 次地区行動計画」に基づく取組みの進捗・評価を行い、地区の諸課題や今後、事業を推進するうえで、目指していく方向性などの共通理解を図ることができた。
課題・方向性	地区行動計画の取組みを着実に推進するため、引き続き「地区行動計画推進委員会」において定期的な進捗状況や諸課題を共有し、新規や鈍化傾向にある取組みの具現化に向けた議論を進めるとともに、本会地区担当職員による活性化の支援に努める必要がある。

(2) 社会福祉法人の公益的な取組との連携

市内の社会福祉法人との連携づくりとして、中域福祉圏ごとに設置している「地区行動推進委員会」や「第 2 層協議体」への参画を働き掛け、顔の見える関係づくりに努めた。

法人分野	参画法人数	会議への参画数
高齢者施設	16 法人	31 回延 50 法人

地域で安心して幸せに暮らすための基盤づくり【共生】

1. 地域で活躍する人材の育成

(1) 福祉教育の推進

学校や団体等と連携し、次世代の福祉マインドの醸成や生涯学習のための福祉教育(ボランティア学習)の推進を図るため以下の講座を実施した。

①出前講座

市民に対する福祉教育(生涯学習)の一環とし、市内の学校・機関・企業等からの要請に応じて講座を開催した。

年度	学校関係	公共機関等	福祉施設、団体等	合計
R5 年度	8 回	3 回	3 回	14 回
R4 年度	5 回	1 回	1 回	7 回
増減	3 回	2 回	2 回	7 回

成果	新型コロナウイルスの第 5 類移行に伴い、年間 14 回の出前講座を実施し昨年度より大幅な増加となった。また、試行的に市内の企業から講座のサポートボランティアとして地域関係者と共に協力いただいた。更には今年度から市内の高校と連携した生徒向けの出前講座としてボランティアに関する講義や活動紹介等を行い、若年層へ福祉や地域活動について理解・関心を深めてもらう機会となった。
課題・方向性	福祉体験型の出前講座に加え、地域でのボランティア活動のきっかけとなる講座メニューを再考し、市内教育機関や企業へのアプローチ方策の検討に努める。 また、福祉体験型の出前講座については、既存のサポートボランティアグループの担い手が著しく減少していることから、地区担当職員と連携しながら地域関係者や他の事業でつながりのできた企業、高齢者分野の社会福祉法人などへも技術的部分のサポートも含めた働き掛けをしていく必要がある。

(2) 企業における社会貢献・CSR活動との連携

地域生活課題が多様化・複雑化する中、これからの地域福祉や共生社会の実現に向けた取組を推進する主体のひとつとして期待されている企業を対象に、「社会貢献・CSR活動」の取組状況や課題を調査・把握し、これらを基に企業と地域をつなぎ、その支援について検討していく参考とすることを目的にアンケート調査を実施した。

CSRとは、corporate social responsibility（企業の社会的責任）の略語です。企業が組織活動を行うにあたって担う社会的責任のことで、社会的責任とは、従業員や消費者、投資者、環境などへの配慮から社会貢献まで、幅広い内容に対し適切な意思決定を行うことを指します。

① 市原市内の企業における社会貢献・CSR活動に関するアンケート調査

調査期間	調査対象	送付数	回収数	回収率
R5. 11. 17 ～ R5. 12. 20	市原市臨海部工場連絡会 市原商工会議所会員企業 (従業員 10 名以上を雇用する企業)	626 社	89 社	14.2%

成果	アンケート調査を通じて、市原市内に事業所を有する企業の皆様方の社会貢献・CSR活動に対する考え方や取組状況、課題等について把握することができた。
課題・方向性	今回の調査結果を基に、企業による社会貢献・CSR活動や従業員によるボランティア活動を後押しするとともに、企業と地域のつながりを促進するために、市原市（行政）と情報を共有し、連携しながら、地域福祉の発展に資する取組を検討していく。

(3) ボランティア活動の推進

① ボランティア活動に関する相談・コーディネート

(ア) ボランティア相談受付、コーディネート

ボランティア活動を行う（行われている）市民、施設・団体などからの活動相談、活動紹介、派遣依頼などのコーディネートを行った。

相談内容	R5 年度	R4 年度	増減
活動希望、活動中の問題に関すること	38 件	61 件	△23 件
派遣依頼に関すること	100 件	58 件	42 件
その他	57 件	55 件	2 件
合 計	195 件	174 件	21 件

(イ) 登録者（団体）の活動実績

ボランティアグループ				個人ボランティア			
	R5 年度	R4 年度	増減		R5 年度	R4 年度	増減
活動回数	11,776 回	10,278 回	1,498 回	延参加人数	2,378 名	1,753 名	625 名
延参加人数	51,451 名	46,260 名	5,191 名				
災害ボランティア				依頼に対する活動状況			
	R5 年度	R4 年度	増減	件 数	R5 年度	R4 年度	増減
活動回数	131 回	95 回	36 回	延参加人数	38 件	8 件	30 件
					159 名	30 名	129 名

成果	新型コロナウイルスの第5類移行に伴い、福祉施設等でのボランティア活動が徐々に再開し始めたことで、ボランティア活動者数及び活動回数が大幅に増加した。また、ボランティア活動を希望する市民からの相談に応じ、地区担当職員と地域で活動できる場の確保に向けた調整を行った。
課題・方向性	新型コロナウイルスの流行から活動の停滞が続く登録ボランティア団体も見受けられるため、引き続き地区担当職員と連携し、身近な地域で活動できる機会の確保に努める。

② ボランティア活動に関する情報提供

社協ホームページや SNS、ボランティア情報ステーション（市原市社会福祉協議会、市原市姉崎保健福祉センター、市原市三和保健福祉センター、市原市南部保健福祉センター、老人福祉センターに設置）等で市内・外のボランティア活動情報等について、市民へ情報提供を行った。

成果	ホームページや SNS (フェイスブック、エックス、LINE、インスタグラム)、社協だよりを活用し、広く市民に講座等の最新情報を積極的に提供できた。
課題・方向性	SNS を活用し活動に係るタイムリーな情報発信を積極的に行っていくとともに、事業毎に開催報告を行い、次の参加につなげていく。

③ ボランティア活動への支援

ボランティア活動の継続性の向上や活性化のため以下の活動支援を行った。

(ア) ボランティア登録数

ボランティアグループ

年度	登録団体数	登録者数
R5 年度	159 団体	3,437 名
R4 年度	166 団体	3,733 名
増 減	△7 団体	△296 名

個人ボランティア

年度	登録者数
R5 年度	153 名
R4 年度	133 名
増 減	20 名

災害ボランティア

年度	登録者数
R5 年度	102 名
R4 年度	95 名
増 減	7 名

(イ) ボランティア連絡協議会の事務局

活動者間の横のつながりや連携づくりの機会を提供するため、市原市ボランティア連絡協議会の事務局を担い協議会活動の支援を行った。

事業名	期日	会場	主な内容
総会	5 月 20 日	市原市姉崎保健福祉センター	・令和 4 年度事業報告(案)について ・令和 4 年度決算報告(案)・監査報告について ・令和 5 年度事業計画(案)について ・令和 5 年度予算(案)について
会員交流会	5 月 30 日	市原市農業センター	会員相互の交流
役員・E S 委員親睦会	6 月 29 日	竹・いろりの里	会員相互の親睦
夏休み親子体験教室	8 月 19 日	市原市三和コミュニティセンター	
講演会	11 月 10 日	市原市市民会館	【講演】「力をあわせて児童虐待のない市原市を！」 講師：特定非営利活動法人 光と風と夢 代表 小倉 淳氏
会員交流クリスマス会	12 月 17 日	市原市五井公民館	会員相互の交流
バス研修	2 月 28 日	香取神宮 佐原街並み交流館	会員相互の交流
パソコン・ZOOM 教室	年 7 回	市原市五井公民館	情報共有を図るための勉強会
フリートーク ワークショップ	年 3 回	市原市五井公民館	会員相互の活動情報交換
会報発行	年 2 回		「いちほらV連協だより」第 35 号 (6 月)・第 36 号(12 月) 広報活動
V 連協運営事業			市原市 V 連協の運営に関すること ・役員会 ・監査 ・その他打合せ

成果	新型コロナウイルスの流行から活動の停滞が続く登録ボランティアグループの活動の機会の確保に向け、地域福祉活動に係る研修会への参加を案内するなど、新たな活動の機会につなげるための働き掛けを行った。 また、ボランティア連絡協議会主催の定例会議等へボランティアセンター職員が参加し、協議会活動の活性化支援を行った。
課題・方向性	担い手不足や新型コロナウイルスの影響等により活動の継続が困難な登録グループ団体も見受けられるため、情報提供を積極的に行うとともに、本会地区担当職員と連携し新たな活動場所の確保及び相談・コーディネートの強化を図る。

④ボランティアの養成

地域が抱える課題について、様々な機会を捉えて情報の収集を行うとともに、社会や地域ニーズに応じた人材の育成を図るための講座等を開催した。

(ア) 傾聴ボランティアフォローアップ講座

傾聴ボランティア活動に関する知識と技術を再確認するとともに、これまでの高齢者施設に加え、新たな活動の場として個人宅における傾聴の技法について学ぶことを目的として実施した。

期日	3月2日(土)
場所	市原市社会福祉協議会 3階会議室
参加者	32名
内容	<p>【講義】「高齢者の体の状況や関わり方」 講師：市原市社会福祉協議会 居宅介護支援事業所職員</p> <p>【説明】「個人宅訪問型傾聴ボランティア活動基礎研修」 説明：市原市社会福祉協議会職員</p> <p>【体験談】「個人宅傾聴体験談」 発表者：傾聴の会ひだまり、傾聴の会こだま</p> <p>【情報交換】「活動紹介及び近況報告」 発表者：傾聴の会ひだまり、傾聴の友やすらぎ、傾聴の会こだま</p> <p>【講義・演習】「傾聴について」 講師：東京情報大学 嘱託教授 田邊 昭雄 氏</p>

(協力：傾聴の会ひだまり・傾聴の友やすらぎ・傾聴の会こだま)

成果	地域包括支援センター、居宅介護支援事業者等から高齢者世帯(個人宅)での傾聴ボランティアの派遣相談が複数寄せられたことから、登録する傾聴ボランティアグループ、市福祉総合相談センター(基幹型包括支援センター)、地域包括支援センターと調整しながら個人宅での傾聴ボランティア活動の仕組みを構築(市内のエリア限定し試行)した。また、担い手を確保するため、これまで開催した養成講座を受講し活動に結びついていない方に呼び掛けて傾聴ボランティアフォローアップ講座を開催し、新たに6名が傾聴ボランティアとしてグループに所属し活動することとなった。
課題・方向性	引き続き、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所とも連携しながらニーズを把握し、登録ボランティアグループと調整を図りながら、段階的に活動エリアが拡充できるように努めたい。また、担い手確保に向けた講座を開催するとともに、受講者が安心して活動できるようなマッチングの体制の強化を図っていきたい。

(3) 人材育成事業

地域特性に応じた地域福祉活動の充実を図るため、新たな担い手の発掘、確保に取り組んだ。

地区	開催日数	参加者数	支援者数	内容
辰巳台	1日	51名	14名	辰巳台地区の地域福祉に携わる団体を対象に、「地域共生社会」をテーマとした研修会を開催し、地域福祉活動実践者の資質向上を図った。
市津	1日	26名	14名	地域住民を対象に日常生活支援事業の説明会を実施。また、支援会員向けの勉強会を行い、活動上の留意点等の情報共有を行った。
有秋	1日	45名	9名	地域住民を対象に「認知症サポーター養成講座」を開催し、その中で地域福祉に関わるアンケートを実施し、新たな担い手の発掘を図った。
ちはら台	2日	79名	16名	地域住民を対象とする集いを開催し、地区社協の事業紹介やボランティア活動紹介、活動者の募集案内を行った。
国分寺台	3日	45名	15名	国分寺台地区の地域福祉に携わる方を対象に、「民生委員の職務について」・「子どもの感性を豊かに」をテーマとした講演会を開催し、地域福祉活動実践者の資質向上を図った。
南総	1日	17名	6名	地域住民を対象に日常生活支援事業に関わるコーディネーター研修を行い、事業全体のイメージの共有化を図った。

年度	開催地区	開催日数	参加者数	支援者数
R5 年度	6 地区	9 日	263 名	74 名
R4 年度	5 地区	7 日	211 名	46 名
増減	1 地区	2 日	52 名	28 名

成果	6 地区で地域関係者の協力により地域福祉活動の研修会・説明会等を実施した。260 名以上の住民が参加し、地域福祉活動への理解や人材の掘り起こしにつながった。
課題・方向性	役員の後継者不足、担い手不足が全地区共通の喫緊の課題となっている。今後も、地区の特性に応じた生活課題の解決に資する事業に必要な人材の確保に向け、地区社協と市社協とが連携・協働して人材の育成・確保のための事業展開を図る。また企業・商店のCSR活動と連携した、人材の確保の方策についても検討していきたい。

2. 権利擁護の推進

(1) 市原市成年後見支援センターの設置・機能の充実

市原市より成年後見支援センター運営を受託し、中核機関として、成年後見支援制度利用の「制度普及」、「相談・支援」、「法人後見受任」、制度利用促進を図るための「協議会」の開催に加え、市原市で初めてとなる「市民後見人養成講座」を実施した。

また、後見制度と両輪とされている福祉サービス利用援助事業の拡充を図った。

①市原市成年後見支援センター（市原市委託事業）

(ア) 成年後見制度相談事業

【対応実績】新規相談・支援総数

区分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計	R4 年度	増減
支援総数 (新規相談件数)	1,681 件 (205 件)	58 件 (12 件)	318 件 (27 件)	136 件 (13 件)	2,193 件 (257 件)	1,885 件 (266 件)	308 件 (△9 件)

・相談手段別支援内訳

区分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計	R4 年度	増減
電話	1,084 件	30 件	160 件	90 件	1,364 件	1,285 件	79 件
郵便・メール	160 件	3 件	29 件	10 件	202 件	88 件	114 件
訪問	309 件	13 件	108 件	34 件	464 件	299 件	165 件
来局	108 件	12 件	18 件	2 件	140 件	171 件	△31 件
調整会議	14 件	0 件	2 件	0 件	16 件	28 件	△12 件
ケース会議	6 件	0 件	1 件	0 件	7 件	14 件	△7 件
その他	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
合計	1,681 件	58 件	318 件	136 件	2,193 件	1,885 件	308 件

・相談内容別支援内訳

区分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計	R4 年度	増減
法定後見	138 件	12 件	34 件	16 件	200 件	140 件	60 件
任意後見	2 件	0 件	0 件	0 件	2 件	19 件	△17 件
弁護士相談	24 件	3 件	1 件	0 件	28 件	41 件	△13 件
専門職相談	72 件	0 件	6 件	49 件	127 件	45 件	82 件

福祉機関紹介	4件	5件	0件	8件	17件	7件	10件
公証人役場	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
遺言相続	3件	0件	1件	0件	4件	2件	2件
事務委任契約	0件	0件	0件	0件	0件	4件	△4件
虐待など	0件	0件	1件	0件	1件	0件	1件
福祉サービス利用援助事業	106件	5件	10件	8件	129件	131件	△2件
その他	5件	0件	0件	2件	7件	0件	7件
申立支援	379件	1件	70件	18件	468件	593件	△125件
後見人支援	81件	4件	6件	3件	94件	37件	57件
法人後見	807件	28件	189件	32件	1,116件	866件	250件
合計	1,681件	58件	318件	136件	2,193件	1,885件	308件

(イ) 弁護士による成年後見制度専門相談

【会場：市原市社会福祉協議会（事務局） 時間：午後1時30分～午後4時30分】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R4年度	増減
相談者数	1名	2名	1名	1名	1名	3名	3名	3名	2名	1名	3名	3名	28名	34名	△6名

【会場：市原市南部保健福祉センター（年2回） 時間：午後1時30分～午後4時30分】

月	6	10	計	R4年度	増減
相談者数	2名	2名	4名	4名	0名

※1…相談者1名あたりの相談時間：60分
 ※2…1日の相談枠数：3名

(ウ) 「調整会議」の開催

制度利用の可否やケース検討、市長申立について、司法福祉専門職と市関係機関で構成された「調整会議」を実施。

期日	参加者	内容				審議総数	R4年度	増減
		市長申立	ケース検討	法人後見 受 任	経過報告			
4月11日	12名	0件	0件	1件	0件	1件	0件	1件
5月9日	12名	1件	0件	0件	0件	1件	2件	△1件
6月（開催中止）		0件	0件	0件	0件	0件	4件	△4件
7月11日	12名	1件	1件	0件	0件	2件	4件	△2件
8月（開催中止）		0件	0件	0件	0件	0件	2件	△2件
9月（開催中止）		0件	0件	0件	0件	0件	4件	△4件
10月10日	10名	1件	0件	0件	0件	1件	3件	△2件
11月7日	10名	2件	0件	0件	0件	2件	2件	0件
12月12日	9名	2件	0件	0件	0件	2件	2件	0件
1月9日	13名	4件	0件	1件	0件	5件	0件	5件
2月（開催中止）		0件	0件	0件	0件	0件	3件	△3件
3月12日	10名	2件	0件	0件	0件	2件	2件	0件
合計	88名	13件	1件	2件	0件	16件	28件	△12件

(エ) 広報啓発活動

・後見制度概要の広報活動、センター活動普及や講演会を実施。

期日	場所	講演名	参加者
4月6日	五井公民館	市原市認知症介護の会 はなみずき 研修会 「市原市成年後見支援センターの事業について」	16名
7月21日	徳氏会館	里見小域ネットワーク安心訪問員推進員講習会 成年後見支援センターの機能と制度利用について	23名
9月14日	五井公民館	市原市認知症対策連絡協議会 「市原市成年後見支援センター業務と市内の後見利用状況について」	30名
10月12日	包括こくぶんじ台 (オンライン)	令和5年度ケアマネ交流会 「成年後見制度と日常生活自立支援事業について」	24名
11月8日	辰巳倶楽部	辰巳倶楽部勉強会 福祉サービス利用援助事業と成年後見制度について	14名
参加人数合計			107名

・民協定例会において後見制度概要、センター事業について説明。

期日	場所	講演名	地区
1月	民協定例会会場	民児協定例会 「成年後見センターの事業について」	7地区

(オ) 「協議会」の開催

司法・医療・福祉等の地域連携体制を構築し、行政機関、関係機関等及び専門職と意見交換、協議を実施した。

期日	場所	参加者	協議内容
7月26日	事務局	25名	市原市成年後見支援センターの機能と推進事業について ・令和4年度市原市成年後見センター活動報告 ・相談シートについて ・令和5年度市民後見人養成講座について
2月9日	事務局	24名	市原市成年後見支援センターの機能と推進事業について ・地域連携ネット(事例)について ・市民後見人養成講座アンケートについて

(カ) 「市民後見人養成講座」の開催

・市民後見人養成講座事前説明会の開催

期日	①7月12日(水)13:30~15:00 ②8月5日(土)10:00~11:30
場所	市原市社会福祉協議会 3階会議室
参加者	①18名 ②13名
内容	市民後見人養成講座の事業内容について 1. 市原市成年後見支援センターについて 2. 市民後見人の活動について (厚生労働省監修動画) 3. 市民後見養成講座受講について

・「市民見人養成講座」の開催

後見人活動に必要な基礎知識を習得し、市民後見人として活動できる人材を育成することを目的として実施し、20名の受講生が養成講座の受講を修了した。

期日	座学:9月9日~11月18日の土曜日(全8回 32コマ) 実務:12月~2月末の期間で同行支援(2ケース/人)
場所	市原市社会福祉協議会 3階会議室
受講生	20名

内容	<p>第1回 ◇9月9日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開講式・オリエンテーション ・成年後見制度① 「成年後見制度概論」【講師】リーガル・サポート千葉県支部 ・成年後見制度② 「法定後見制度」 【講師】リーガル・サポート千葉県支部 ・成年後見制度③ 任意後見制度 【講師】千葉公証役場 <p>第2回 ◇9月23日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度と関係機関① 「市原市の現状と成年後見制度利用促進基本計画」【講師】共生社会推進課 ・成年後見制度と関係機関② 「行政相談機関の連携と役割／高齢者虐待防止法」【講師】共生社会推進課福祉総合相談センター ・成年後見制度と関係機関③ 「中核地域生活支援センターの活動」【講師】中核地域生活支援センター ・成年後見制度と関係機関④ 「福祉サービス利用援助事業」【講師】市原市後見支援センター <p>第3回 ◇9月30日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市原市の福祉制度① 【講師】障がい者支援課 「障害者施策と障害者虐待防止法／障害者権利条約・障害者差別解消法」 ・市原市の福祉制度② 「生活保護制度／生活困窮者自立支援制度」【講師】生活福祉第1課／共生社会推進課 ・市原市の福祉制度③ 「介護保険制度」 【講師】高齢者支援課 ・市原市の福祉制度④ 「高齢者施策」 【講師】高齢者支援課 <p>第4回 ◇10月14日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者への理解①「高齢者と認知症の理解」【講師】地域包括支援センターしおみ ・対象者への理解②「障がい者への理解①」【講師】市原地域生活支援センターはばたき ・対象者への理解③「障がい者への理解②」【講師】社会福祉法人 佑啓会 ・対象者への理解④「障がい者への理解③」【講師】社会福祉法人 宝樹 <p>第5回 ◇10月21日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民法の基礎① 財産法(契約・後見人の権限)【講師】千葉県弁護士会 ・民法の基礎② 家族法(相続・遺言) 【講師】千葉県弁護士会 ・健康保険制度と年金制度の理解 【講師】社労士成年後見センター千葉 「年金の種類・手続き・申請について」 ・税務申告制度 税申告(市民税・県民税の申告等)【講師】千葉県税理士会 <p>第6回 ◇10月28日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者保護 【講師】市原市成年後見支援センター 「消費生活被害の実例と対策消費生活支援センター(DVD、資料提供)」 ・家庭裁判所の役割 家庭裁判所と成年後見制度【講師】千葉家庭裁判所 ・市民後見概論① 市民後見人に求められる倫理意識【講師】千葉県弁護士会 ・対人援助の基礎① 傾聴について 【講師】東京情報大学 <p>第7回 ◇11月11日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度の実務① 「申立書書類の作成について」【講師】リーガル・サポート千葉県支部 ・成年後見制度の実務① 「初回報告書・定期報告資料の作成について」【講師】リーガル・サポート千葉県支部 ・成年後見制度の実務① 「支援中に発生する申立、後見終了の手続きについて」【講師】リーガル・サポート千葉県支部 ・市民後見人の活動について 市民後見人活動者の報告【講師】千葉市成年後見支援センター <p>第8回 ◇11月18日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対人援助の基礎② 対人援助技術、コミュニケーション技術【講師】千葉県社会福祉士会 ・対人援助の基礎③ 意思決定支援について(グループワーク)【講師】千葉県社会福祉士会 ・市民後見概論② グループワーク【講師】千葉県社会福祉士会 ・基礎研修(座学)確認テスト <p>◇12月～2月：実務研修実施 2ケース/人(専門員との同行支援)</p>
----	--

②法人後見の実施

調整会議において制度利用が適正と承認された方の候補者として、家庭裁判所へ申立をし、後見人等として受任をした。(R6.3.31 現在受任中の数値)

区分	後見人	保佐人	補助人	受任件数	R4 年度	増減
高齢者	6 件	4 件	0 件	10 件	8 件	2 件
知的障がい者	1 件	0 件	0 件	1 件	1 件	0 件
精神障がい者	1 件	1 件	0 件	2 件	1 件	1 件
その他	0 件	0 件	1 件	1 件	1 件	0 件
合計	8 件	5 件	1 件	14 件	11 件	3 件

③福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）

高齢者や障がい者に対し、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理等の援助を行うことにより、地域での自立した生活を送ることを支援するために、福祉サービス利用援助事業を実施した。

【対応実績】

(ア) 新規相談・契約件数

区分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計	R4 年度	増減
新規相談件数	106 件	7 件	8 件	8 件	129 件	131 件	△2 件
新規支援・訪問回数	613 件	69 件	48 件	15 件	745 件	915 件	△170 件
新規契約件数	38 件	3 件	3 件	0 件	44 件	59 件	△15 件

(イ) 契約者訪問・相談支援件数

月	契約者数	訪問支援件数	相談支援件数	支援合計	R4 年度	増減
4	115 件	138 件	234 件	372 件	411 件	△39 件
5	116 件	132 件	342 件	474 件	374 件	100 件
6	114 件	146 件	431 件	577 件	462 件	115 件
7	120 件	130 件	366 件	496 件	460 件	36 件
8	123 件	152 件	333 件	485 件	532 件	△47 件
9	123 件	141 件	347 件	488 件	449 件	39 件
10	124 件	147 件	354 件	501 件	406 件	95 件
11	127 件	144 件	300 件	444 件	428 件	16 件
12	128 件	152 件	361 件	513 件	421 件	92 件
1	120 件	123 件	248 件	371 件	378 件	△7 件
2	123 件	133 件	234 件	367 件	362 件	5 件
3	120 件	121 件	221 件	342 件	442 件	△100 件
合計	1,453 件	1,659 件	3,771 件	5,430 件	5,125 件	305 件

成果	市原市で初めて市民後見人養成講座を開催し 20 名の受講生が第 1 期生として受講修了した。センターに寄せられる相談は複雑、困難なケースが増えているが、関係機関との協力・連携を図りながら対応、支援することができた。
課題・方向性	後見制度普及のため、チラシ配布や講習会等を行っているが、未だ十分に制度が普及しているとは言えない状況である。引き続き様々な媒体や講習会等を通じて広く市民へ周知するとともに、本人の意思に沿った制度利用となるよう、本人、地域住民、関係者とチームを組んだ支援体制の構築を図っていく。また、市民後見人養成講座修了者に対してフォローアップ研修を行い、市民後見人として活躍できる人材の育成に努める。

3. 災害対応力の向上

(1) 災害ボランティアセンターの体制強化

「災害ボランティアセンター」の体制強化を図るため、市原市と本会において「災害ボランティアセンターの設置・運営等に関する協定書」を締結（令和5年5月16日付）するとともに、災害支援活動に取り組む関係機関・団体等と連携・協働し下記の取組みを行った。

(2) 災害ボランティアの育成・確保

①災害ボランティア養成講座（基本編）

災害時のボランティア活動や災害ボランティアセンターについて基本的な知識や技術を学ぶとともに、被災後の復興支援に取り組む「災害ボランティア」を養成することを目的として実施した。

期日	9月30日（土）
場所	市原市南部保健福祉センター
参加者	52名
内容	<p>【説明】「市原市災害ボランティアセンターについて」 説明：市原市社会福祉協議会職員</p> <p>【講義】「災害ボランティアセンターとは ～地域に根ざした災害ボランティアセンターを目指して～」 講師：公益社団法人 SL 災害ボランティアネットワーク 常務理事 天寺 純香 氏</p> <p>【演習】「災害ボランティア活動のポイント（実践編）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工具の使い方（のこぎりの使い方） 講師：市原市ボランティア連絡協議会（SaToYaMa よくし隊） ・工具の使い方（くぎ抜きポイント） 講師：千葉土建一般労働組合市原支部 ・土のう袋（結び方・積み方のポイント） 講師：千葉土建一般労働組合市原支部 ・機材の使い方（発電機の使い方） 講師：千葉土建一般労働組合市原支部 ・安全衛生（活動における留意点） 講師：日本赤十字社千葉県支部 ・要配慮者への接し方（車いす操作方法） 講師：市原市社会福祉協議会 <p>【事務連絡】「市原市災害ボランティア登録制度について」 ⇒24名事前登録</p>

②災害ボランティア養成講座（ステップアップ編）

今後の大規模災害に備えて、災害発生時に迅速・円滑に救援活動が行えるよう、災害ボランティアのリーダーとして活動するために必要な知識を習得し、資質向上を図ることを目的として実施した。

期日	12月9日（土）
場所	市原市南部保健福祉センター
参加者	36名
内容	<p>【実践報告】 「令和元年度房総半島台風時の南房総市災害ボランティアセンターでの支援」 講師：南房総市社会福祉協議会 副主査 平井 良治 氏</p> <p>【講義・演習】「災害現場におけるリーダーの役割」 講師：公益社団法人 SL 災害ボランティアネットワーク 常務理事 天寺 純香 氏</p>

③市原市自主防災実務者講習会（※NPO法人ゆかいな仲間たちの主催事業）

市原市自主防災実務者講習会の中で「災害ボランティアセンター」について講義を行った。

期日	6月24日（土）
場所	市原市姉崎保健福祉センター 体育室

④いちほら市民大学専門コース（※市原市の主催事業）

防災コースにて「災害ボランティアセンターの役割」について講義を行った。

期日	12月13日（水）
場所	サンプラザ市原9階 研修室1・2
受講者	13名

⑤市原市総合防災訓練への参加（※市原市の主催事業）

市原市地域防災計画に基づき、発災時における防災関係機関との連携体制の構築、より多くの市民への災害ボランティア活動の意識醸成を目的に参加した。

期日	11月5日（日）
場所	市原市立八幡小学校
内容	災害ボランティアセンター啓発チラシ配布

（3）市原市災害ボランティア活動連絡調整会議の開催

市原市が大規模災害に見舞われたとき、関係機関及び団体が連携し、迅速かつ効果的な支援活動を行えるよう、平常時から災害対策について情報の共有や施策の連携を図ることを目的として、市原市災害ボランティア活動連絡調整会議を実施した。

期日	1回目：7月7日（金） 2回目：9月19日（火） 3回目：11月13日（月） 4回目：1月22日（月） 5回目：3月7日（木）
場所	市原市社会福祉協議会 3階会議室
内容	1回目 ①令和5年度事業計画について （災害ボランティア養成講座【基本編】・【ステップアップ編】、災害ボランティアセンター設置運営訓練） ②構成機関・団体の活動近況報告について 2回目 ①令和5年度事業について （災害ボランティア養成講座【基本編】・【ステップアップ編】、災害ボランティアセンター設置運営訓練及び福祉避難所開設運営訓練） ②構成機関・団体の活動近況報告について 3回目 ①令和5年度事業について （災害ボランティア養成講座【基本編】の開催報告、災害ボランティア養成講座【ステップアップ編】、災害ボランティアセンター設置運営訓練及び福祉避難所開設運営訓練） ②構成機関・団体の活動近況報告について 4回目 ①令和5年度事業について （災害ボランティア養成講座【ステップアップ編】の開催報告、災害ボランティアセンター設置運営訓練及び福祉避難所開設運営訓練） ②構成機関・団体の活動近況報告について 5回目 ①令和5年度事業について （災害ボランティアセンター設置運営訓練及び福祉避難所開設運営訓練の開催報告） ②令和6年度事業について ③構成機関・団体の活動近況報告について

（4）災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施

「初動体制マニュアル」及び「災害ボランティアセンター運営マニュアル【改訂版】」に基づき、市原市において大規模災害が発生した場合に迅速に対応するため、災害ボランティアセンターの設置運営を行うとともに、関係団体の協力を得てサテライト災害ボランティアセンターの設置運営訓練を実施した。※福祉避難所開設運営訓練同日開催

期日	2月11日（日・祝）
場所	市原市南部保健福祉センター、市原市南総公民館
参加者	90名

内容	「第2次配備からの災害ボランティアセンター設置運営訓練」 協力団体：市原市ボランティア連絡協議会、千葉県災害対策コーディネーター連絡会、 (公社) SL 災害ボランティアネットワーク市原ネット、(公社) SL 災害ボランティアネットワーク千葉県ネット、市原市災害ボランティアネットワーク、 NPO 法人ゆかいな仲間たち、日本赤十字社千葉県支部、千葉土建一般労働組合市原支部、市原市総務部危機管理課、市原市保健福祉部共生社会推進課
成果	災害時に円滑・迅速な災害ボランティアセンターの設置・運営を図るため、訓練や講座、関連団体が参画する調整会議などを開催するとともに、市民大学や防災訓練、防災関係者の講習会等への積極的な参加を通じた啓発活動を行った。 「災害ボランティア養成講座(基本編)」では、新たに災害ボランティアに24名が登録し累計102名が事前登録者となった。また、事前登録者を対象に「災害ボランティア養成講座(ステップアップ編)」を開催することで、活動リーダーとしてのスキルを学ぶとともに活動意識の醸成につなげることができた。 「災害ボランティアセンター設置運営訓練」では、関連諸団体や地区社協関係者の他、事前登録者(一部)に災害ボランティアセンター(サテライト含む)のスタッフ役を体験してもらうことで、それぞれの役割を再認識するとともに連携体制の強化に努めた。
課題・方向性	平常時から災害時に迅速に対応できるよう「災害ボランティア養成講座(ステップアップ編)」や「災害ボランティアセンター設置運営訓練」を通じたセンタースタッフやボランティア活動リーダー役を担う人材の育成に努める。また、引き続き、調整会議や訓練等を通じ、災害ボランティア活動組織、関係機関、地域関係者などとの連携・協働体制の構築に努める。

(5) 災害支援ボランティア事業

災害にも強い地域づくりに向けて、地域住民や地域関係者を対象に防災・減災の意識啓発と災害時におけるボランティア活動を切り口とする地域での災害支援活動について勉強会等を企画実施した。

地区	開催日数	参加者数	支援者数	内容
ちはら台	2日	28名	10名	災害ボランティアを養成するため、地域住民を対象とした地域防災講座を開催し、サテライト災害ボランティアセンターの役割について理解を深めた。
有秋	2日	41名	8名	有秋・姉崎地区が合同での研修会を開催し、福祉避難所の開設・運営について理解を深めた。
三和	1日	25名	8名	災害ボランティア活動に係る勉強会を開催し、サテライトボランティアセンターとしての役割や福祉避難所の概要について理解を深めた。
南総	3日	54名	3名	南総・加茂地区合同で、市社協主催の訓練と連携した、災害ボランティアセンター・福祉避難所について研修・訓練を実施し、災害時の地区社協の対応について理解を深めた。
加茂	3日	52名	3名	南総・加茂地区合同で、市社協主催の訓練と連携した、災害ボランティアセンター・福祉避難所について研修・訓練を実施し、災害時の地区社協の対応について理解を深めた。
辰巳台	1日	66名	26名	地域住民を対象とした研修会を開催し、災害発生時・緊急時の対応方法について理解を深めた。
国分寺台	1日	40名	6名	地域住民を対象とした研修会を開催。公益財団法人 SL 災害ボランティアネットワークを講師に講演及び避難所運営訓練(HUG)を通じ、災害に対する意識醸成を図った。

年度	開催地区	開催日数	延参加者数	延活動者数
R5年度	7地区	13日	306名	64名
R4年度	4地区	7日	246名	105名
増減	3地区	6日	60名	△41名

成果	平常時から大規模災害に備えた地域での防災意識の啓発や災害ボランティア活動に資する事業を7地区で実施した。南総・加茂地区では、本事業を活用した事前勉強会の開催や本会主催の訓練を活用しながら、災害時に備えたボランティア活動やサテライト災害ボランティアセンター・福祉避難所への関わりについての理解を深めることができた。
課題・方向性	引き続き、事業を通じ地域住民への防災・減災の意識啓発と、各地区における災害時のボランティア活動やサテライト災害ボランティアセンターの運営支援に係る体制構築に向けた検討を進める。

指定管理施設の運営

1. 指定管理施設管理経営事業

指定管理者として、老人福祉センター、保健福祉センター（3館）をそれぞれ運営した。

施設名	指定管理期間
老人福祉センター	平成31年4月1日～令和6年3月31日
三和保健福祉センター	
南部保健福祉センター	令和2年4月1日～令和7年3月31日
姉崎保健福祉センター	令和3年4月1日～令和8年3月31日

(1) 老人福祉センター管理経営事業

高齢者に対し、各種の相談に応じるとともに健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与することを目的として、健康体操の実施、保健師による健康相談や血圧測定、その他教養講座を次のとおり開催した。

事業名		期日
健康相談・血圧測定(保健師：串田保健師)		毎月1回
各種講座	大正琴	第2・第4水曜日
	書道	第1・第3金曜日
	生け花	第2・第4木曜日
	アートフラワー	第1木曜日
	絵てがみ	第1月曜日
	囲碁会	毎週火曜日
	ゲートボール	休止

①月別利用状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
老人クラブ	団体数	4	3	3	4	1	2	4	4	3	3	4	2	37 団体
	人数	67	42	33	57	14	38	60	55	54	60	68	36	584 名
一般団体	団体数	24	24	23	24	21	24	29	23	22	22	25	25	286 団体
	人数	266	269	279	290	245	286	319	268	247	282	291	291	3,333 名
団体合計	団体数	28	27	26	28	22	26	33	27	25	25	29	27	323 団体
	人数	333	331	312	347	259	324	379	323	301	342	359	327	3,917 名
個人人数		1,151	1,068	1,159	993	993	971	1,083	1,017	1,082	997	998	962	12,474 名
総合計		1,484	1,379	1,471	1,340	1,252	1,295	1,462	1,340	1,383	1,339	1,357	1,289	16,391 名

②利用状況前年度比較

区分	団体数		前年度 比較増減	人数		前年度 比較増減
	令和5年度	令和4年度		令和5年度	令和4年度	
老人クラブ	37団体	43団体	△6団体	584名	659名	△75名
一般団体	286団体	264団体	22団体	3,333名	2,665名	668名
個人				12,474名	12,787名	△313名
合計	323団体	307団体	16団体	16,391名	16,111名	280名

成果	明るく過ごせるようあいさつや声掛けを行い、利用者の皆様から好評を頂いている。健康維持を目標に健康体操及びラジオ体操を積極的に行った。
課題・方向性	前年度から比べると教養講座を利用する人数が増えたが老人クラブや個人利用する利用者数が減少している。今後も情報発信等を積極的に行い利用促進を図る必要がある。

(2) 姉崎保健福祉センター管理経営事業

①地域福祉センター

地域住民やボランティア、民間福祉団体等の福祉活動の拠点として利用を促進するとともに、各種福祉情報の提供を総合的に行い、地域住民の福祉意識の高揚を図った。また、地域住民の福祉ニーズや相談に応じるとともに、適切な管理運営と住民参加による各種事業を実施した。

(ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R4年度	増減
体育室	2,630	2,220	2,946	1,741	2,119	2,016	2,160	2,169	2,199	0	0	0	20,200	31,770	△11,570
ボランティアルーム	291	513	331	260	364	342	503	352	384	352	437	423	4,552	4,507	45
実習室	210	228	214	174	113	167	162	213	291	179	199	211	2,361	2,657	△296
調理実習室	11	11	13	18	11	12	7	11	38	13	16	37	198	195	3
研修室	370	544	456	504	538	472	585	376	468	1,288	506	1,558	7,665	9,128	△1,463
多目的ホール	531	569	563	544	498	524	798	628	526	602	733	752	7,268	8,398	△1,130
ゲートボール場	26	15	24	4	0	56	9	35	31	33	38	12	283	310	△27
相談室	89	215	126	44	51	38	66	85	55	40	28	46	883	610	273
合計	4,158	4,315	4,673	3,289	3,694	3,627	4,290	3,869	3,992	2,507	1,957	3,039	43,410	57,575	△14,165

※地域福祉センター休室

体育室…令和6年1月1日～3月31日

(イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
ニコニコキッズ	5月22日 6月20日 9月19日	ボランティアによる手作り遊具を活用し、開放された遊びの場を提供することで、親子が交流を図り情報交換を行う等の子育ての支援を行うことを目的として実施した。	106名
ニコニコボランティア	4月～3月 (全15回)	ニコニコキッズで使用する手作りおもちゃの作成や、事業を運営するボランティアの育成及び支援を図ることを目的として実施した。	106名
バリアフリースポーツ教室	6月25日	障がい児(者)を中心としたバリアフリースポーツを地域の高齢者、児童、ボランティアと一緒に体験することで、障がい者への理解を深め交流の機会を作るために実施した。	35名
昔あそび	4月22日 5月27日 6月25日 10月31日	昔から伝承されている子どもの遊びを教わるとともに一緒に楽しみながら世代間の交流を図ることを目的として実施した。(児童館と共催) 協力：シルバー友の会	171名

アネッサ発 クリーン大作戦	11月18日	施設利用者と地域住民とで地域の清掃活動を行い、地域に貢献するとともに、世代間・サークル間の交流を図り相互理解を深めることを目的として実施した。（児童館と共催）	97名
手話入門講座	1月～3月 (全10回)	市民に対し、障がいに対する理解とボランティア意識の向上を図るため、初心者を対象とした手話入門講座を実施した。	55名
アネッササンクス フェスタ	11月3日	地域住民同士の交流を促進し、地域との新たなつながりをつくることを目的に、姉崎地区社会福祉協議会と共催による「アネッサ福祉祭りバザー」として実施した。	610名
チャレンジ 夏休みの課題	7月31日 8月1日 8月2日	近隣小学校児童の夏休み期間中の学習をサポートすることを通じて世代間交流を図り、相互理解を深めることを目的として実施した。（児童館及び青少年会館と共催）	70名
グランドゴルフ大会	9月24日	社会体育振興会の呼び掛けにより、世代間の交流を図ることを目的として実施した。（社会体育振興会と共催）	30名
普通救命講習	5月16日	万が一における事故等に市民が対応できる知識及び技術を身につけてもらうための講習会を実施した。	4名
施設内美化活動	4月8日 5月13日 6月10日 9月10日 10月14日	敷地内の除草を利用者に呼びかけ、ボランティア意識の向上と親睦を図ることを目的として実施した。	81名
自主防災講習会	7月 (全2回)	防災についての知識を高め、地域防災の在り方や取組について学ぶことを目的として実施した。 (NPO法人ゆかいな仲間たちと共催)	91名
ボランティア 活動紹介	9月1日 ～9月30日	アネッサを利用するボランティアグループの活動紹介を掲示することで、市民のボランティア活動への関心を高めるとともに、活動の周知及び啓発を図ることを目的として実施した。	9団体
サークル活動紹介	10月1日 ～10月31日	日頃アネッサを利用しているサークルの活動紹介を掲示し、地域住民に広く周知することで、生きがいのある活動のきっかけづくりとすることを目的として実施した。	12団体
レコード交流会	4月～3月 (全12回)	レコード鑑賞（茶話会）を通じて地域住民の居場所づくりを行い、交流する機会を提供することを目的として実施した。	428名
おもいっきり体育室	4月22日 5月27日 6月11日 6月25日	参加者が自由に体を動かして、様々な遊びを楽しむことや、ボランティアと参加者同士の交流を図ることを目的として実施した。（児童館と共催）	145名
体験！ニュースポーツ	11月19日	子どもから高齢者まで様々な世代が交流する機会をつくり、ニュースポーツを通じて健康増進や親睦を深めることを目的として実施した。（市原市クッパ協会と共催）	55名
あそびばアネッサ	12月17日	子どもの居場所を提供するとともに、「あそび」を通じた住民同士の交流により、地域内の福祉ニーズの発掘や福祉に対する理解促進を図ることを目的として実施した。（姉崎地区社会福祉協議会との共催）	95名
地域食堂 げんき食堂アネッサ	4月～3月 (全9回)	子どもから高齢者まで様々な世代が交流し、地域の絆を深め、お互いさまの気持ちを育むことができる居場所づくりを目的として実施した。 (姉崎地区社会福祉協議会との共催)	283名
共生型サロン ニコニコサロン	4月～3月 (全11回)	高齢者、就学前の親子、障がい者を含む地域の誰もが参加でき、交流を図ることを目的として実施した。 (姉崎地区社会福祉協議会との共催)	568名

成果	保健福祉センターの特性を活かした地域の各種団体等との共催事業を実施した。特に姉崎地区社会福祉協議会と共催した「アネッササクスフェスタ（アネッサ福祉祭りバザー）」により、世代間交流や地域の絆づくり、居場所づくりが図られ、地域住民と一体となった事業展開を行うことができた。また、各事業の内容を充実させたことにより、世代間の交流が図られ、高齢者や児童、障がいのある方等が相互理解を深めることができた。
課題・方向性	今後も地域の福祉ニーズや相談に応じ、適切な管理運営と住民参加による各種事業を企画実施していく。また、アネッサ広報紙やホームページ、SNSを活用し、積極的な広報活動を行い活動のPRを進めていくとともに、ボランティアが参加しやすい環境整備に努めていく。

②老人福祉センター

高齢者が健康で明るい生活が送れるよう憩いの場を提供するとともに、豊かな心で生きがいのある生活が送れるように、健康増進や介護予防を目的とした各種講座を実施した。

(ア) 月別利用状況〔貸室〕

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R4年度	増減
大広間	団体	16	0	0	0	0	0	5	0	5	0	0	0	26	83	△ 57
	個人	562	517	634	632	632	604	632	604	554	558	543	609	7,081	7,578	△ 497
和室		52	57	85	60	88	100	81	48	52	23	33	96	775	673	102
男性浴室		0	51	418	479	454	419	490	527	533	51	266	532	4,220	5,043	△ 823
女性浴室		0	22	121	124	130	143	183	184	206	15	32	0	1,160	1,763	△ 603
合計		630	647	1,258	1,295	1,304	1,266	1,391	1,363	1,350	647	874	1,237	13,262	15,140	△ 1,878

※老人福祉センター休室

男性浴室…令和5年4月1日～5月24日、令和6年1月7日～2月7日

女性浴室…令和5年4月1日～5月24日、令和6年1月7日～2月7日

令和6年2月21日～3月31日

(イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
ヨガ教室	6月～8月 (全10回)	初心者向けのヨガ教室を通じて交流の場を提供するとともに、健康促進、介護予防を兼ねた心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：鈴木 なぎさ 氏	91名
一文字書を楽しむ (書道教室)	5月12日 5月19日 5月26日 6月2日	書道を通じ趣味活動や創作意欲を高めるとともに、交流の場を提供することで心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：大野 蘭秀 氏	36名
健康体操教室	2月8日 2月15日 2月29日 3月7日	健康体操を通じて交流の場を提供するとともに、健康促進、介護予防を兼ねた心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：栗林 雄一 氏	36名
フラワーアレンジメント教室	11月1日 11月22日	フラワーアレンジメントを通じ趣味活動や創作意欲を高めるとともに、交流の場を提供することで心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：茂木 朋美 氏	12名
はじめての 太極拳教室	6月～8月 (全10回)	太極拳を通じて交流の場を提供するとともに、健康促進、介護予防を兼ねた心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：山崎 辰雄 氏	249名
絵手紙教室	11月～1月 (全10回)	絵手紙の基本を学ぶことで趣味活動や創作意欲を高めるとともに、交流の場を提供することで心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：東 洋子 氏	88名

介護予防講話 ・体操教室	2月19日 2月26日 3月4日 3月18日	地域包括支援センターによる講話や体操を通じ、体力の維持増進を図り介護予防に繋げることを目的として実施した。 講師：地域包括支援センターたいよう 地域包括支援センターしおみ	54名
折り紙教室	5月23日 5月24日	折り紙の基本を学ぶことで趣味活動や創作意欲を高めるとともに、交流の場を提供することで心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：福田 進一 氏	12名
ヨガ教室中級	11月～12月 (全6回)	ヨガ教室を通じて交流の場を提供するとともに、健康促進、介護予防を兼ねた心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：鈴木 なぎさ 氏	53名
ハンドメイド(トールペイント)教室	6月～12月 (全6回)	トールペイントの基本を学ぶことで趣味活動や創作意欲を高めるとともに、交流の場を提供することで心身の健康維持を図ることを目的として実施した。 講師：黒川 美智子 氏	49名
アネッサ料理教室	3月14日	料理教室を通じて、参加者相互の交流を図り、生きがいのある生活を送れるよう助長することを目的として実施した。 講師：安藤 みどり 氏	6名
アネッサケーキ教室	3月17日	ケーキづくり教室を通じて、参加者相互の交流を図り、生きがいのある生活を送れるよう助長することを目的として実施した。 講師：野田 真由美 氏	4名
歩こう会	4月～3月 (全6回)	高齢者の介護予防と生きがいづくりの場を提供することを目的として実施した。 (姉崎小学校区小域福祉ネットワークとの共催)	90名

成果	全体的な利用者数は減少しているものの、新規の利用登録者やサークル登録数は微増しており、高齢者の社会参加の契機や介護予防につなげ、高齢者福祉の推進に寄与することができている。また、姉崎地区社会福祉協議会との連携により、ちょっとした困りごとを抱えるセンター利用の高齢者への声掛けや生活支援につなぐことができた。
課題・方向性	事業等への興味や関心を地域の高齢者に持ってもらい、参加や利用を促進するために、本会ホームページやアネッサだより等での広報活動を積極的に行う必要がある。また設備の不良により浴室が使用できないなどの不具合が生じたことにより利用者数に影響が出ているため、市と協議し、適切な施設管理に努めたい。

③児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した他、子育て支援や青少年の健全育成に努めた。

(ア) 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R4年度	増減
児童	360	367	431	419	559	537	426	376	347	276	370	420	4,888	4,091	797
保護者	318	316	386	338	358	424	352	317	291	215	297	308	3,920	3,530	390
合計	678	683	817	757	917	961	778	693	638	491	667	728	8,808	7,621	1,187

(オ) 図書貸出状況

児童の情操の向上に寄与するもの及び子育てに関する図書の閲覧、貸出を実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R4年度	増減
登録者	3	2	7	8	9	5	4	1	1	5	5	4	54	52	2
貸出(冊)	288	244	252	321	253	289	299	252	88	170	200	205	2,861	2,187	674

(カ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
子育て支援拠点事業			
ポヨポヨクラブ	毎週火曜日	未就学児とその保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	1,238名
ひよこクラブ	毎週木曜日		873名
のびのびクラブ	毎週金曜日		1,192名
相談支援事業	通年	子育ての不安感等を緩和するために実施した。	37名
定期企画事業			
英語で遊ぼう	毎月第3水曜日	楽しく遊びながら英語に親しむ子育てクラブを実施した。	149名
ママといっしょ	毎月第4水曜日	楽しく遊びながら音楽に親しむ子育てクラブを実施した。	214名
ふたごっちクラブ	毎月第2水曜日	ふたごっちを対象として、簡単な手遊び・絵本の読み聞かせ・保護者同士の交流を通して育児についての情報交換や仲間作りの場として実施した。	34名
ゲーム・工作	毎週日曜日	手ぶらで気軽に楽しめるイベントを土日に開催しています。	320名
おもいっきり体育室	4月22日 5月27日 6月25日 10月31日	参加者が自由に体を動かして、様々な遊びを楽しむことや、ボランティアと参加者同士の交流を図ることを目的として実施した。 (地域福祉センターと共催)	145名
昔あそび	6月25日 10月29日 1月21日 3月18日	ボランティアとの交流を図りながら、昔から伝承されている子どもの遊びを楽しみ、交流を図るために実施した。(地域福祉センターと共催) 協力：シルバー友の会	171名
必須事業			
乳幼児のための救急法	9月21日	乳幼児を持つ保護者が家庭内における突発の事故に対処するための基礎知識を習得することを目的として実施した。 講師：姉崎消防署	33名
ママのリフレッシュ講座	2月7日	日頃の育児疲れやストレスを発散し、リフレッシュしてもらうことを目的に「ガーランド作り」を実施した。	16名
すこやか講座	7月25日 10月13日 11月30日	育児についての日頃の悩みなどを話し合い、育児の大切さを学ぶとともに、育児に対する適切な情報提供を行うことを目的として実施した。	80名
食育座談会	6月8日	食について日頃の悩みなどを話し合い、食の大切さを学ぶとともに、食に対する適切な情報提供を行うことを目的として実施した。 講師：市原市ネウボラセンター栄養士	20名
児童館大運動会	5月31日	発育時期に分かれ実施している事業を合同でイベントを行うことで、通常事業とは違う情報交換や仲間作りの場の提供も兼ねるとともに、参加者間及び親子間の交流を図ることを目的に実施した。	71名
選択事業			
アネッサ自然体験	10月7日	自然に親しみながら情操を豊かにするとともに、集団生活を通して協調性及び責任感を認識させることを目的として実施した。	33名
中高生による子育てクラブ	通年	中高生ボランティアによる読み聞かせ、手あそびなどを実施した。	96名
キッズボランティアクラブ	通年	児童のボランティア活動への参加促進を図ることを目的とし、小中学生のボランティアによる子育てクラブでの発表に向けて練習した。	132名

アネッサ発 クリーン大作戦	11月18日	施設利用者と地域住民とで行う地域の清掃活動に参加することでボランティア活動への意識を高めることを目的として実施した。(地域福祉センターと共催)	97名
単発企画事業			
おもしろ実験教室	8月5日	児童自らが創造し、自らの手で作る楽しさを体験することにより情操を豊かにするとともに集団活動を通じて協調性及び責任を認識させることを目的として実施した。	17名
児童館クリスマス会	12月21日	未就学児とその保護者が安心して過ごせる場所を提供し、子どもの成長と子育てに悩む保護者同士の交流の場として利用されることを目的として実施した。	149名
チャレンジ 夏休みの課題	7月31日 8月4日 8月5日	近隣小学校児童の夏休み期間中の学習をサポートすることを通じて世代間の交流を図り、相互理解を深めることを目的として実施した。(地域福祉センター及び青少年会館と共催)	70名
ハンドメイド(デコ パージュ)教室	9月16日	児童自らの手で作る楽しさを知り情操を豊かにするとともに、協調性・責任感を認識させることを目的として実施した。 講師：黒川 美智子 氏	10名
クッキング教室	12月2日	児童自らの手で作る楽しさを体験するとともに、親子のふれあう喜びを味わい、情操を豊かにすることを目的として実施した。	18名
お楽しみ劇場	7月21日 10月27日 2月16日	人形劇を通して情操を豊かにするとともに、協調性を養うことを目的として実施した。	98名
ドールシアター	7月11日 11月14日	人形劇を通して想像力を豊かにするとともに、情操や協調性等を養うことを目的として実施した。	67名
乳幼児のための 交通安全教室	7月18日	乳幼児をもつ保護者が、日常における交通マナーの基礎知識を取得し、交通安全に役立てることを目的として実施した。	8名

成果	新型感染症の第5類移行に伴い子育てクラブを通常の内容へと戻し、更に充実化を図ったため、参加者からの好評の声を多く聞くことができた。また、小学生のためのスペースを設けたことが浸透し、繰り返し利用する児童が増え、小学生の居場所となり、健全育成を図ることができた。
課題・方向性	これまでの事業のあり方等を見直し、利用者の立場に立った環境整備を図るとともに、内容の充実化を検討していく。 また、利用者のニーズに合った事業の検討をしていくとともにSNSを活用したPRを継続して行っていく。

(3) 三和保健福祉センター管理経営事業

①地域福祉センター

地域住民やボランティア、民間福祉団体等の福祉活動の拠点として利用を促進するとともに、各種福祉情報の提供を総合的に行い、地域住民の福祉意識の高揚を図った。また、地域住民の福祉ニーズや相談に応じるとともに、適切な管理運営と住民参加による各種事業を実施した。

(ア) 月別利用状況[貸室]

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R4年度	増減
ボランティアルーム	333	252	290	347	280	304	313	277	267	307	240	279	3,489	3,482	7
研修室	193	194	232	221	58	129	174	137	138	92	136	157	1,861	1,926	△ 65
多目的ホール	362	382	356	418	377	422	463	330	326	322	354	342	4,454	2,599	1,855
創作活動室	115	119	116	132	143	100	139	136	78	98	92	107	1,375	1,156	219
合計	1003	947	994	1118	858	955	1089	880	809	819	822	885	11,179	9163	2,016

(イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
おもちゃ図書館	4月～3月 (毎月第2・4 土曜日)	障がい児と未就学児を対象に、おもちゃで遊ぶことを通して心身の健全な発達を促すとともに、保護者同士の交流を図ることを目的として、ボランティアグループ「かるがも」の協力により実施した。新型コロナウイルス対策のため、おもちゃの貸出のみとした。	260名
さんあーとくらぶ	4月～3月 (第2日曜 日)	障がいを持つ人を対象としたボランティアによる絵画・工作教室を実施した。 講師：米元志慶子氏	39名
フレンズ	4月～3月 (毎月第1・ 3木曜日)	発達の気になる未就学児を対象に、遊びの場と機会を提供し、遊びを通して健全な発達を促すとともに、保護者同士の交流を目的として、発達支援センターの協力を得て実施した。	491名
自由空間	4月～3月 (毎月第2木 曜日)	ひきこもりや不登校、社会に出ることが困難な方々を対象に相談や、談話することにより社会へ出ていくための支援を行った。	2名
子育てサロン さんわぼかぼか	4月～3月 (毎月第4月 曜日 8、1月 除く10回)	地区社会福祉協議会と連携、主に未就学児と保護者を対象に遊びと交流の場を提供すること及び見守りや相談等の活動を担うボランティアの育成支援を目的に実施した。	325名
世代間交流	7月25日 10月18日	60歳以上の高齢者と未就学児がおもちゃ作りやクイズラリーを介して交流することで喜びを感じてもらうことを目的として実施した。	41名
歌声喫茶	9月27日 11月8日 12月13日	サンハート利用者や地域住民を対象に、音楽を通じて参加者相互のふれあいや交流を図り、また、利用団体に対して活動の披露の場を提供した。	126名
さんさんクリーン大作戦	12月3日	地域住民やサンハート利用者が協力して清掃活動を行うことで、交流しながら地域の環境美化を実践し、併せてボランティア活動の啓発を図ることを目的として、施設周辺のごみ拾い予定した。	45名
サンハートまつり	1月28日	新型コロナウイルス感染防止の観点から規模を縮小し、施設の周知及びサークル活動の活性化を図ることを目的として、作品展覧会を実施した。	395名
市民講座	2月17日	地域住民を対象に、福祉についての関心を深め、住み良い地域づくりを推進するために「認知症サポーター養成講座」講座を実施した。	10名

成果	新型コロナウイルスの第5類移行に伴い事業規模や参加者枠の拡大ができたことや地域福祉関係団体等の協力を得て取り組めたことで地域との連携の強化につなげることができた。また、地域住民をはじめ幅広い層に交流の場や支援の場を提供することができた。
課題・方向性	新型コロナウイルスの第5類移行により以前の生活を取り戻しつつあるが、社会情勢の変化が激しい時代を迎え、新たな利用者ニーズに沿った事業の展開を工夫し、より安心・安全な施設利用環境を整え利用促進につなげていく。

②老人福祉センター

高齢者が健康で明るい生活が送れるよう憩いの場を提供するとともに、豊かな心で生きがいのある生活が送れるように、健康増進や介護予防を目的とした各種講座を実施した。

(ア) 月別利用状況[貸室]

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R4年度	増減
大広間(団体)	0	0	0	0	0	54	0	44	40	358	0	0	496	94	402
大広間(個人)	148	169	223	196	0	12	102	198	154	137	130	121	1,590	2,683	△ 1,093
和室	32	38	31	31	0	0	0	47	39	54	21	28	321	464	△ 143
男性浴室	0	299	528	505	0	0	0	462	483	510	324	0	3,111	3,190	△ 79
女性浴室	0	114	175	173	0	0	0	186	186	225	136	0	1,195	1,185	10
生活相談室	36	35	61	37	4	0	0	29	30	19	26	44	321	448	△ 127
合計	216	655	1018	942	4	66	102	966	932	1303	637	193	7,034	8,064	△ 1,030

※老人福祉センターの休室

大広間 令和5年8月1日～9月26日

和室・生活相談室 令和5年8月1日～11月2日

浴室 令和4年4月1日～5月1日 8月1日～11月2日 令和6年2月20日～3月31日

(イ) 年間事業実施状況

※新型コロナウイルス感染症感染防止対策として定員を縮小して実施

事業名	期日	内容	参加者
健康体操教室	5月 10月 (全8回)	運動の習慣化図り、基礎体力を維持と健康で生きがいのある生活につなげることを目的として実施した。 講師：大前陽子氏	102名
楽しく俳句教室	8月～9月 (全4回)	創作活動を通して教養を高め、参加者と交流することで生きがいのある生活につなげることを目的として実施した。 講師：木村孝一氏	39名
気功教室	6月 (全4回)	健康づくりの習慣化を図るとともに、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：上久保治子氏	44名
ヨガ教室	5月～6月 9月～10月 (全8回)	健康づくりの習慣化を図るとともに、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：古川佳子氏	107名
絵手紙教室	7月 11月 (全4回)	趣味活動を通じて教養を高め、参加者と交流することで生きがいのある生活につなげることを目的として実施した。 講師：向井艶子氏	41名
いつでも脳トレ教室	9月11日	日常生活の中で認知機能の低下を防ぐ脳トレを継続することで、脳を健康な状態に保ち介護予防につなげることを目的として実施した。 講師：豊留富美氏	14名
ボールエクササイズ教室	6月～7月 (全4回)	健康づくりの習慣化を図るとともに、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：根本壽美子氏	45名
テーブルのできる茶の湯教室	9月～10月 (全4回)	趣味活動と交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：白川ますみ氏	25名
一文字書教室	11月(全4回)	趣味活動と交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：大野文子氏	20名
健康太極拳教室	9月(全4回)	運動の習慣化図り、基礎体力を維持と健康で生きがいのある生活につなげることを目的として実施した。 講師：等々力啓子氏	31名

フレイル教室	8月9日 12月5日	フレイル予防の意識付けと実践により、高齢者の健康づくりの推進を図ることを目的として実施した。 講師：市原市保健センター職員	6名
成果	新型コロナウイルスの第5類移行に伴い参加者枠の拡大をしたことや利用者ニーズに応え運動機能維持等につながる教室などの事業展開に努めたことで、高齢者の健康維持につなげることができたほか、フレイル教室を通じてフレイル予防への関心や健康意識の高揚が図れた。		
課題・方向性	新型コロナウイルスの第5類移行により以前の生活を取り戻しつつあるが、社会情勢の変化が激しい時代を迎え、既存事業の継続とともに新たな高齢者ニーズに沿ってインセンティブな事業の展開を工夫することで、参加意欲や持続性を高めるとともにより安心・安全な施設利用環境を整え利用促進につなげていく。		

③児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した他、子育て支援や青少年の健全育成に努めた。（児童館施設が利用できないため2階保健指導室及びサンハート貸室を活用）

なお、新型コロナウイルス感染症感染防止対策として定員を縮小して実施した。

(ア) 月別利用状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R4年度	増減
児童	99	70	116	100	130	78	96	101	144	124	163	219	1,440	1,248	192
保護者	88	86	130	99	122	92	91	87	148	125	158	191	1,417	1,203	214
合計	187	156	246	199	252	170	187	188	292	249	321	410	2,857	2,451	406

※台風16号で被災した遊戯室・図書室が令和3年10月2日から令和5年11月30日まで休館継続
ただし、令和3年10月20日から図書の一部貸出を2階ラウンジで再開
(災害復旧工事及び空調更新工事竣工により令和5年12月1日から児童館再開)

(イ) 図書貸出状況

児童の情操の向上に寄与するもの及び子育てに関する図書の閲覧、貸出を行った。

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R4年度	増減
新規登録者	10	2	2	10	7	6	6	7	5	7	3	7	72	61	11
貸出(冊)	102	111	133	113	158	144	161	187	80	112	137	166	1,604	1,719	△ 115

※台風16号で被災した遊戯室・図書室が令和3年10月2日から令和5年11月30日まで休館継続
ただし、令和3年10月20日から図書の一部貸出を2階ラウンジで再開
(災害復旧工事及び空調更新工事竣工により令和5年12月1日から児童館再開)

(ウ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
子育て支援事業			
さんさんくらぶ きらきらくらぶ	毎週火曜日 毎週金曜日	乳幼児をもつ保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	332名 180名
よちよちくらぶ	毎週水曜日	生後11ヶ月から1歳6ヶ月までの子をもつ保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	122名
あかちゃんくらぶ	毎週木曜日	生後3ヶ月から10ヶ月までの子をもつ保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	169名
合同くらぶ	3月27日	事業効果を高めるため、個別くらぶ形式に加え、合同くらぶ形式でも実施した。	54名

定期企画事業			
児童館ボランティアクラブ	通年	児童を対象にボランティアの育成を目的として「児童館ボランティアクラブ」に登録してもらい、子育てクラブやイベント等において読み聞かせなどのボランティア活動の体験を行った。	29名
子育てクラブボランティア	通年	三和地区社会福祉協議会と協働し、夏休み期間中の中学生・高校生に子育てクラブにおいて絵本の読み聞かせや遊び相手等のボランティア活動の機会を提供した。	8名
クラフト&プレイ みんな遊ぼう	第1～3日曜日 毎週第4日曜日	児童自らの手で作り、描き、物事を演じる楽しさを味わうことにより、情操を豊かにするとともに、集団活動を通じて協調性及び責任感を認識させることを目的に実施した。	124名 48名
放課後クラブ	毎週火～金曜日	小学生以上の放課後の居場所づくりを目的として実施した。	14名
単発企画事業			
ベビーマッサージ教室	6月8日 6月22日	助産師の指導によるベビーマッサージ 講師：嶋津一恵氏	34名
人形劇場	5月23日 12月5日	「人形劇団とんとん」による人形劇上演	19名 17名
夏休み子ども工作教室	7月27日	和紙を使ったちぎり絵で季節の絵手紙作り 講師：布施知代子氏	7名
夏休み子ども 布ぞうり教室	8月18日	タオルで布ぞうり作り 講師：宍倉春江氏	7名
夏休み子ども 絵手紙教室	8月3日	野菜や人形など自分の好きな画材で季節の絵手紙作り 講師：向井艶子氏	10名
親子ベビーマッサージ教室	9月20日	乳幼児母子でベビーマッサージを体験する 講師：篠宮方美氏	14名
知っててよかった ママの救急法	10月12日	乳幼児のケガや誤飲などの手当ての仕方を実技指導により学ぶ 講師：市原市光風台分署署員	10名
世代間交流事業	7月21日 1月26日 2月22日	アコーデオンスークル「ドレミファ」の演奏会 読み聞かせボランティア「佐藤ミエ」氏による読み聞かせ アコーデオンスークル「ドレミファ」の演奏会	10名 13名 22名
相談支援事業	通年	子育ての不安感等を緩和するために実施した。	3名

成果	台風被害による改修工事等で11月末まで休室が続いたため、保健指導室やその他貸室を、12月以降は児童館の施設を活用し事業を実施することで親子が安心して参加でき親子の触れ合いの場を提供することができた。また、事業参加を通して保護者の悩み事など聴き、適切な助言等を行うことで相互の関係性の向上や子育て支援につなげることができた。
課題・方向性	新型コロナウイルスの第5類移行により以前の生活を取り戻しつつあるが、社会情勢の変化が激しい時代を迎え子育て世代の新たなニーズを把握し事業展開に工夫を凝らすことで参加意欲を高め、安心して利用できる施設環境を整え親子の触れ合いの場を提供していく。

④障がい者福祉センター

障がいを持った方に対し、社会との交流促進や余暇支援のための便宜を提供し、福祉の増進を図るための事業を実施した。

(ア) 月別利用状況[貸室]

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R4年度	増減
研修室	287	270	467	376	331	354	426	261	388	315	287	292	4,054	3,656	398
プレイルーム	350	291	483	338	324	409	478	372	352	223	261	307	4,188	4,147	41
障がい者談話室	350	291	483	338	324	409	478	372	352	223	261	307	4,188	4,147	41
療育相談室	36	39	22	45	111	94	71	65	33	45	60	49	670	355	315
合計	1023	891	1455	1097	1090	1266	1453	1070	1125	806	869	955	13,100	12,305	795

(4) 南部保健福祉センター管理経営事業

① 地域福祉センター

地域住民やボランティア、民間福祉団体等の福祉活動の拠点として利用を促進するとともに、各種福祉情報の提供を総合的に行い、地域住民の福祉意識の高揚を図った。また、地域住民の福祉ニーズや相談に応じるとともに、適切な管理運営と住民参加による各種事業を実施した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R4年度	増減
ボランティアルーム	88	91	101	124	66	262	72	102	226	70	170	138	1,510	2,024	△ 514
調理実習室	22	0	0	0	3	10	4	30	7	31	53	20	180	135	45
多目的室	492	683	1,164	1,232	634	1,379	1,559	1,009	1,189	681	756	705	11,483	10,485	998
創作活動室	0	0	11	149	6	105	139	20	128	52	55	9	674	485	189
会議室②	33	61	93	200	45	142	240	59	109	41	75	69	1,167	1,164	3
合計	635	835	1,369	1,705	754	1,898	2,014	1,220	1,659	875	1,109	941	15,014	14,293	721

イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
子育て支援事業 (子育てサロン)	7月29日 9月26日 10月28日 2月16日	市内在住の就学前の児童を対象に、遊びなどを通して心身の健全な発達を促すとともに、同じように子育てをしている仲間との交流の場の提供を目的に実施した。 講師 いちはらシルバー友の会(昔あそび)※ 子育て家庭支援員(親子三代ミニ運動会) 更生保護女性会南総支部(絵本の読み聞かせ)※ アコーディオンドレミファ※ (アコーディオンの演奏でうたおう!あそぼう!) ※児童館等と共催	88名
なのはなフェスタ	3月2日	地域住民の交流と当館の利用拡大を目指し、各センターと地域の関係団体との連携によりイベントを行い、様々な世代の交流の場を提供するとともに、ボランティアとして参画していただくことで、地域の担い手として活躍できる「居場所」づくりを行った。 内容: 演芸部門(利用サークル等の発表)、囲碁・将棋大会 ロコモチェック&血管年齢測定、子育てクラブ及び遊び場提供、福祉に関する相談コーナー等	331名
ふれあいサロン 事業	7月12日 1月25日 1月26日 2月22日	一人暮らし高齢者や介護に不安を抱える方などが地域で孤立することなく、安心していきいきとした生活が送れるように、交流やふれあいの場の提供を目的にサロンを実施した。 講師: 関みどり氏 江頭直美氏 福井琴美氏(トータス) 渡邊智子氏 四方洋平氏(ひまわり) 協力団体: 市原市地域包括支援センター トータス 市原市地域包括支援センター ひまわり アコーディオンドレミファ	74名
地域交流事業 (歌声喫茶)	5月10日 11月15日 12月13日	楽器の生演奏に合わせて参加者が一緒に歌うことにより、参加者相互のふれあいや交流を図った。 協力団体: チャーリーウクレクラブマハロ アコーディオンいちはら	121名
世代間交流事業 (昔あそび)	11月26日	市内在住の未就学児から高齢者まで幅広く参加者を募り、「昔あそび」を通して楽しい時間を過ごす中で、多様な世代の相互理解を深め、より明るい生活が送れるようにすることを目的に事業を実施した。 協力団体: 牛久小学校区小域福祉ネットワーク	24名
障がい者交流事業 (ポッチャ体験交流会)	2月24日	障がいのある方とボランティアや地域住民との交流の場としてポッチャの体験・交流会を実施し、障がい者への理解と交流を図ることにより、思いやりのある地域づくりを推進した。 協力団体: 市原ポッチャクラブ	27名

成果	新型コロナウイルスの第5類移行に伴い、いくつかの事業の募集人員を増やしたが、概ね定員を確保することができ、健康で健全な心身の発達を促すとともに、ふれあいや交流の場を提供することができた。
課題・方向性	コロナ禍が明け、参加者が増加する傾向にあるが、一部の事業では定員割れを生じていることから、事業内容を検討し住民ニーズを反映した効果的なふれあいの場や交流の場を提供していく必要がある。

② 中高年健康増進施設

地域の中高齢者の健康増進に寄与するために、各種教室を開催した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R4年度	増減
健康増進施設	1,695	1,687	1,660	1,915	1,797	1,920	1,997	1,446	1,415	1,482	1,363	1,883	20,260	18,647	1,613

イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内 容	参加者
水中ウォーキング	月1回 月曜日 ※5、6、10、11 月2回 年14回	健康増進室・歩行用プール安全講習会受講登録済みの方を対象に、アクアビクス（水中エアロビクス）・アクアウォーキング（水中歩行）に筋トレを加味しながら、体力向上と健康意識を高めることを目的に実施した。 講師：株式会社 パーソンアンドパーソンスタッフ	89名
月例講習会 (体力向上レッスン)	月1回 金曜日 ※9、10月：2回 年12回	健康増進室・歩行用プール安全講習会受講登録済みの方を対象に、健康な身体を創るために筋トレなどを行うとともに健康意識を高めることを目的に実施した。 講師：株式会社 パーソンアンドパーソンスタッフ	207名
安全講習会	毎週3回 (火・木・土曜日) 年94回	安全管理を徹底し事故防止を図ることを目的に実施した。	134名
ミニストレッチ教室	週4回 ※日曜日：2回 (水・金・日曜日) 年179回	準備体操・整理体操としてのストレッチの普及、定着を図ることを目的に実施した。 講師：株式会社 パーソンアンドパーソンスタッフ	1,569名

成果	インストラクターによる的確な指導に沿って運動を行うことで、より効果が期待できるとともに、参加者の健康意識の高揚を図ることができた。
課題・方向性	コロナ禍が明け、安全講習会の受講者が増えてきており、各事業の参加者並びに健康増進室自体の利用者が増加する傾向にある。今後も、より多くの高齢者が安心して利用できる体制と、利用促進に向けた広報やニーズに合った事業内容の検討を進めていく。

③ 老人福祉センター

高齢者が健康で明るい生活が送れるよう憩いの場を提供するとともに、豊かな心で生きがいのある生活が送れるように、健康増進や介護予防を目的とした各種講座を実施した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R4年度	増減
大広間	団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	個人	312	310	320	338	345	297	303	308	289	299	354	306	3,781	3,923
和室	0	11	0	0	0	5	21	0	31	0	21	18	107	68	39
合計	312	321	320	338	345	302	324	308	320	299	375	324	3,888	3,991	△ 103

イ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
健康体操教室	7月～12月 (全10回)	高齢者の健康づくりを目的として、健康体操教室を実施した。 講師：山口 紀美代 氏	219名
ヨガ教室 「初 級」	5月～7月 (全8回)	健康維持と仲間作りを目的として、ヨガ教室を実施した。 講師：古川 佳子 氏	232名
ヨガ教室 「中 級」	9月～11月 (全8回)	健康維持と仲間作りを目的として、ヨガ教室を実施した。 講師：古川 佳子 氏	206名
ハーモニカ教室	6月～8月 (全8回)	ハーモニカを通して高齢者に趣味活動の充実と交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：高松 洋子 氏	52名
一文字書教室	1月～2月 (全5回)	書道を通して高齢者に趣味活動の充実と交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：大野 文子 氏 藤田 のどか 氏	33名
太極拳教室	1月～2月 (全5回)	太極拳を通して心身の健康と基礎体力の向上並びに仲間づくりの場を提供することを目的に実施した。 講師：等々力 佳子 氏、松井 將子 氏、久保田 和彰 氏	148名
太巻き寿司教室	11月28日 1月23日 (全2回)	市原市の伝統的な太巻き寿司の作り方を学ぶとともに交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：小出 一子 氏	16名
健康教室① 「講 話」	10月26日	高齢者を対象に「糖尿病予防と食生活」をテーマとした講話を実施し、健康と食生活についての知識を深めた。 講師：千葉県がんセンター栄養科 上席専門員 石橋 裕子 氏	16名
健康教室② 「料理教室」	11月30日	料理実習を通して日常の食生活と健康との関りを理解するとともに、参加者同士の交流の機会とすることを目的として実施した。 「糖尿病を予防するための料理①」 講師：千葉県がんセンター栄養科 上席専門員 石橋 裕子 氏	16名
健康教室③ 「料理教室」	1月25日	料理実習を通して日常の食生活と健康との関りを理解するとともに、参加者同士の交流の機会とすることを目的として実施した。 「糖尿病を予防するための料理②」 講師：千葉県がんセンター栄養科 上席専門員 石橋 裕子 氏	13名
健康教室④ 「チャレンジ太極拳」	11月22日 29日 (全2回)	太極拳を通して心身の健康と基礎体力の向上並びに仲間づくりの場を提供することを目的に実施した。 講師：等々力 佳子、松井 將子、久保田 和彰	40名

成 果	新型コロナウイルスの第5類移行に伴い、いくつかの事業の募集人員を増やしたが、概ね定員を確保することができた。健康講座では高齢者の体力の維持と増進を図ることができ、教養講座では創作活動や参加者相互の交流により、生きがいのある活力に満ちた生活につなげることができた。
課題・方向性	これまでの事業を継続して実施するが、参加者が固定化してきていることから、多方面からの高齢者の参加を促すように広報手段を検討する。

④ 児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した他、子育て支援や青少年の健全育成に努めた。

ア) 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R4年度	増減
児童	137	116	121	195	200	155	116	105	133	108	124	183	1,693	1,168	525
保護者	118	109	115	182	157	130	99	101	118	97	112	162	1,500	1,004	496
合計	255	225	236	377	357	285	215	206	251	205	236	345	3,193	2,172	1021

イ) 図書貸出状況

児童の情操を豊かにする紙芝居や図書の閲覧、貸出を行った。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R4年度	増減
登録者	16	10	3	5	4	3	6	4	3	4	6	8	72	41	31
貸出(冊)	235	237	225	299	260	231	256	195	85	149	192	207	2,571	2,080	491

ウ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
子育て支援事業			
あかちゃんクラブ 「ほっぷ」	毎週金曜日	生後3ヶ月頃からおおよそ1歳頃までのお子さんとその保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	590名
ちびっこクラブ 「すてっぷ」	毎週水曜日	1歳頃から未就学児のお子さんとその保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	509名
親子クラブ「じゃんぷ」	毎週土曜日	1歳頃から未就学児のお子さんとその保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。	611名
定期企画事業			
わくわくイベント	月3回日曜日	児童に工作や読み聞かせなどを通して、情操を豊かにするとともに協調性を養うことを目的として実施した。	157名
子どもボランティア 育成支援事業	6月10,25日 7月23,30日 8月9,16,27日 1月28日 2月14,21,25,28日	ボランティア体験を通して、社会福祉についての理解と関心を深めることを目的として実施した。 ・わくわくイベントの補助 ・子育てクラブ参加、絵本の読み聞かせ ・工作準備と補助、カードシアター製作、上演 ・子どもの遊び相手	24名
自然体験活動事業 「なのはな探検隊」	6月11日 10月22日	自然に親しむことにより情操を豊かにし、ひきこもりや不登校で悩みをかかえている家族が他者と交流し、自然と触れ合いながら社会と繋がる機会として実施した。 ・身近な市原の自然を親しむ ・植物や生き物を観察し生態を学ぶ 講師：柳池 繁 氏	4名 13名
単発企画事業			
親子うきうき☆おはなし会 親子うきうき☆シアター	5月17日 12月9日	児童の豊かな情操と協調性等を育むことを目的として実施した。 ボランティアグループ「ぐりとぐら」「ぶろべら雑技団」による人形劇等	11名 35名

幼児のための交通安全教室	7月12日	これから道路交通の場にデビューする幼児に道路で遊ぶことや飛び出しの危険性など基本的な知識をその保護者と一緒に学ぶことを目的として実施する。	17名
世代間交流事業 「昔あそび」	7月29日 11月26日	子どもから高齢者まで様々な世代の方々が交流する機会を作り、昔遊びの面白さの再発見、遊びの技術の伝承を通じて、他者との関わり方、おもいやりの心の育成を育むことを目的として実施した。（地域福祉センターと共催） 協力団体：「いちはらシルバー友の会」 「牛久小学校区小域福祉ネットワーク」	22名 37名
なのはな実験教室	7月23日	児童が科学に親しみ、豊かな情操を育むことを目的として科学遊びや工作を実施した。 講師：柳池 繁 氏	15名
ママのリフレッシュ	6月30日	親子のスキンシップを図り、家庭での楽しい子育てと親子のリフレッシュに繋げることを目的としてストレッチ教室を実施した。 講師：田中 和子 氏	14名
親子体操	8月20日	乳幼児を持つ保護者を対象に、家庭で楽しく子育てに取り組み、子どもが健やかに育つように支援することを目的として、親子で楽しめる体操や身体遊びを実施した。 講師：蔭山 陽子 氏	19名
季節のイベント	4月～2月 (43回)	児童自ら体験することで情操を豊かにし、協調性を育むことを目的として、季節感のある工作やおはなし会を実施した。	425名
親子の料理教室	4月23日	親子で料理を楽しむことによって子どもの豊かな情操を育むことを目的としてパンとお菓子作りを実施した。 講師：吉野 知子 氏	16名
相談支援事業	通年	子育ての不安感等を緩和するために実施した。	6名

成 果	親子のふれあいの場となり豊かな情操や協調性を育むことができた。保護者は情報交換や息抜きの場となった。交流の場を提供することにより今後の活動の幅が広がった。
課題・方向性	利用者の安全配慮にさらに努め、SNS等も活用し子育て中の親子の交流の場の充実に努めていきたい。また、小学生・中高生の来館促進の為、事業やイベントの充実に努めていきたい。

⑤ 障がい者福祉センター

障がいを持った方に対し、社会との交流促進や余暇支援のための便宜を提供し、福祉の増進を図るための事業を実施した。

ア) 月別利用状況〔貸室〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R4年度	増減
障がい者交流室	479	463	604	614	475	417	570	440	471	468	438	480	5,919	6,084	△ 165
会議室①	147	183	328	338	65	460	495	134	497	131	230	174	3,182	3,133	49
合計	626	646	932	952	540	877	1,065	574	968	599	668	654	9,101	9,217	△ 116

(5) 福祉避難所開設運営訓練の実施

災害時、市原市災害対策本部支援班からの要請に応じ、本会が管理運営する指定管理施設において、福祉避難所として開設運営が迅速・円滑に行えるよう、各施設が策定した「福祉避難所開設・運営マニュアル」に基づき、地域関係団体等の協力のもと、今年度始めて開設運営訓練を実施した。

※災害ボランティアセンター設置運営訓練同日開催

期日	2月11日(日・祝)
場所	市原市南部保健福祉センター
参加者	47名
内容	「福祉避難所開設・運営マニュアル」に基づく訓練 ・市との連携確認、避難所の開設準備、避難者の受入れ 協力団体：南総地区社会福祉協議会、加茂地区社会福祉協議会、南総地区民生委員児童委員協議会、加茂地区民生委員児童委員協議会、市原市保健福祉部共生社会推進課
成果	指定管理施設職員を中心に、避難所の開設から閉鎖までの流れや地域関係者の協力により設けた避難者役の受入れ、処遇対応などを体験することで、職員の役割や運営課題等を再認識することができ、マニュアルの検証や見直し等の必要性を検討する契機となった。
課題・方向性	訓練で把握した運営課題等を整理し、マニュアルの検証や必要な見直しを図るとともに、継続的な訓練を実施しながら、職員の避難所運営スキルの向上や地域の福祉関係者と連携した運営体制の構築に努めていくこととした。